



# 履修要項

令和3年度 入学生用

*Nagoya Women's University*

名古屋女子大学 文学部

# 目次

はじめに	3
I. 単位制度について	4
II. 卒業要件について	5
ディプロマポリシー（学位授与の方針）	5
III. 教育課程	7
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	7
全学共通科目	11
児童教育学科（児童教育学専攻・幼児保育学専攻）	12
1. 教育目的について	12
2. 授業科目について	12
児童教育学科児童教育学専攻	14
カリキュラムマップ	17
カリキュラムツリー	18
児童教育学科幼児保育学専攻	20
カリキュラムマップ	23
カリキュラムツリー	24
IV. 免許・資格	26
1. 教員免許状	26
〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕	29
中学校教諭一種免許状（児童教育学科児童教育学専攻小中教育コース）	30
小学校教諭一種免許状（児童教育学科児童教育学専攻小中教育コース・初等教育コース）	32
幼稚園教諭一種免許状（児童教育学科児童教育学専攻初等教育コース・幼児教育コース）	34
幼稚園教諭一種免許状（児童教育学科幼児保育学専攻）	38
2-1. 保育士資格（児童教育学科児童教育学専攻幼児教育コース）	40
2-2. 保育士資格（児童教育学科幼児保育学専攻）	42
V. 海外留学	44
「留学」について	44

<b>VI. 履修の案内</b> .....	45
1. 履修登録について .....	45
2. 授業及び試験について .....	47
<b>授業</b> .....	47
〔1〕授業の開講形態／〔2〕授業時間割／〔3〕授業・試験時間／〔4〕休講／	
〔5〕補講／〔6〕欠席・遅刻・早退	
<b>試験</b> .....	48
〔1〕試験の種類と方法／〔2〕期末試験／〔3〕追試験／〔4〕やむを得ない理由	
を証明する書類／〔5〕再試験／〔6〕追・再試験手続一覧／〔7〕受験資格／	
〔8〕受験時の諸注意（期末試験、追・再試験）	
3. 成績について .....	52
〔1〕成績評価・単位の認定／〔2〕成績の通知／〔3〕成績の問い合わせ	
4. GPAについて .....	53
5. 単位互換制度について .....	54
<b>教務関係の用語</b> .....	55

## はじめに

大学は、小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、これまでのように指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たねばならないということです。その際にこの『履修要項』が大きな役割を果たすことと思います。卒業まで必要に応じて活用し、単位数が不足して卒業できないということのないよう十分注意してください。

まず最初に、単位制度と卒業要件の説明があります。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。また、修得した単位には、あらかじめ決められた必修科目と選択科目が含まれていなければ卒業できません。

次に教育課程（カリキュラム）が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画（シラバス）」とともに参考にしてください。免許や資格については、IV. 免許・資格で、留学については、V. 海外留学で詳しく説明しています。

それから、履修の案内があります。単位を修得するためには履修登録をしなければなりません。期日が決められている上、なかなか面倒な手続きです。この要項をよく読んで、提出期日に遅れたり、手続き方法を間違えないよう十分注意してください。もし提出が遅れると授業が受けられません。そのほかに、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず目を通しておいてください。

学生の皆さんは、卒業まではこの『履修要項』を座右において、必要に応じてこの冊子を活用するようにしてください。また十分理解できないときは学生支援センターでたずねてください。

# I. 単位制度について

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて45時間の学修時間を必要とします。
- 3) 大学の授業時間は、通常、45分を「1時間」の授業とみなし、「2時間」(=90分)の授業が基本の授業時間です。
- 4) 授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ1単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

**講義科目** (1単位に必要な授業時間数は15時間)

- 1 単位の場合 (毎週2時間の授業)×7.5回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 4 単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

**演習科目** (1単位に必要な授業時間数は30時間。ただし、児童教育学専攻の一部の科目は、15時間の授業時間数で1単位)

- 1 単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

**実験・実習・実技科目** (1単位に必要な授業時間数は45時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ1、2に必要な授業時間数は30時間)

- 1 単位の場合 (毎週3時間の授業)×15回……………半期科目
- 2 単位の場合 (毎週3時間の授業)×30回……………通年科目

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、「Ⅲ. 教育課程」の表を参照してください。なお、半期科目、通年科目は次に示すとおりです。

半期科目(前期科目、後期科目)

前期または後期の半年間原則として授業を行い、半年ごとに単位認定をする科目

通年科目

1年間授業を行い、1年ごとに単位認定をする科目

# Ⅱ．卒業要件について

## ディプロマポリシー（学位授与の方針）

### 文学部

文学部のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学科が定める所定の単位を取得し、教育・保育の分野における専門性、学士力、豊かな人間性や社会性、及び実践的コミュニケーション力を備え、教育や保育の分野において社会で貢献できる資質を身に付けた人に、学位を授与します。

### 児童教育学科

#### 1. 達成目標

子どもにかかわる社会的・教育的背景を広く学び、コミュニケーション能力や教育の理論と時代の変化に対応できる実践力を身に付け、教育者（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）として社会に貢献できる人材となること。

#### 2. 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

- ・教育と保育の理論に関わる知識および子どもの成長を支援する実践力を身に付けていること。
- ・主体性および協調性、協働の基盤となるコミュニケーション能力、自らの成長に創造的に向き合う態度が身に付いていること。

#### (1) 児童教育学専攻

##### 1. 達成目標

教育・保育に関わる専門的知識や技能、高い教養に裏打ちされた豊かな人間性や社会性、英語指導力を含む高度な指導力を備えた人材となること。

##### 2. 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

- ・教育と保育の理論に関わる知識および豊かな人間性に支えられた実践的指導力を身に付けていること。
- ・自分の意見を大切にしながら互いに協同して課題解決を導く力を身に付けていること。

#### (2) 幼児保育学専攻

##### 1. 達成目標

子どもの成長にかかわる専門的知識や実践的スキルを備え、乳幼児の保育と地域の子育て環境作りをサポートできる高度な指導力を備えた人材となること。

##### 2. 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

- ・乳幼児期の保育・教育に関わる知識・実践力および家庭、地域の子育て環境づくりにおいて専門的知識を発揮できる力を身に付けていること。
- ・主体性や協調性を大切にしながら課題解決に向けて創造的に向き合う態度を身に付けていること。

大学を卒業するためには、4年以上在学し、学科・専攻ごとに定める教育課程に従って授業科目を履修し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

### 【児童教育学科－児童教育学専攻】

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		授業科目の区分ごとに定める必要単位数	自由選択科目	合計
全学共通科目	人間形成科目	必修3単位を含めて9単位以上	29単位以上	129単位以上
	一般教育科目			
	芸術科目			
	外国語科目	必修8単位を含めて10単位以上		
	情報・表現科目			
	体育・健康科目	1単位以上		
児童教育学科		5単位必修		
児童教育学専攻専門科目		75単位選択		

### 【児童教育学科－幼児保育学専攻】

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		授業科目の区分ごとに定める必要単位数	自由選択科目	合計
全学共通科目	人間形成科目	必修3単位を含めて11単位以上	30単位以上	129単位以上
	一般教育科目			
	芸術科目			
	外国語科目	必修8単位を含めて10単位以上		
	情報・表現科目			
	体育・健康科目	1単位以上		
児童教育学科		1単位必修		
幼児保育学専攻専門科目		76単位選択		

### 単位互換科目

県内すべての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づき他大学で単位互換向けに開放される科目及び、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」に基づき名古屋女子大学短期大学部で開放される科目を履修し、本学の単位として卒業要件の自由選択科目に算入できる制度があります。詳しいことは学生支援センターにお問い合わせください。名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度については54ページを参照してください。その他、他大学開放科目等、他大学が開放している授業科目で単位認定証明のあるものを含みます。

# Ⅲ. 教育課程

## カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

### 文学部

文学部は、建学の精神であり、学園の信条である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的としています。この目的を達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを全学共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成しています。第二に、教育・保育の分野を中心とした豊かな専門知識に支えられ、時代の変化に対応できるコミュニケーション能力に基づく優れた実践力と教育への深い見識を備えた職能人を育成するため、必要な専門科目を設け、有機的連携を保ちつつ、体系的な教育課程を実現しています。学部全体では、実践的コミュニケーション力を有し、教育や保育の分野において社会貢献できる人材を育てるための教育課程を編成しています。

### 児童教育学科

#### 1. 人材育成目標

主体性と協調性、高いコミュニケーション力で創造的に課題解決に向き合える態度を有し、教育・保育の分野における豊かな専門知識と確かな実践力を備えた人材を育成します。

#### 児童教育学専攻

教育・保育に関わる専門的知識や技能に加え、豊かな人間性や社会性、英語指導力を含む高度な指導力を有する職能人（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）を育成します。

#### 幼児保育学専攻

子どもの成長に関わる専門的知識や実践的スキル、乳幼児の保育と地域のサポートができる高度な指導力を備えた職能人（保育士・幼稚園教諭）を育成します。

#### 2. 教育課程の編成目標

##### (1) GPA

GPAを活用して、学修成果を振り返りながら学生指導を行います。

##### (2) 共通科目・入門的専門科目の設定・充実

幅広い教養・コミュニケーション力の基盤を身に付けるために、「人間形成」「一般教育」「芸術」「外国語」「情報・表現」「体育・健康」のカテゴリーに分かれた全学共通科目を配置しています。大学生活における目標を見定めるとともに主体性と協調性を基盤とする課題解決力の基礎を身に付けるために、大学での学びの導入としての入門的専門科目（児童教育基礎演習・幼児保育基礎演習）を1年次に配置しています。

##### (3) 履修科目群の具体化

#### 児童教育学専攻

下記6領域において理論と実践を関連させながら高度な専門性を養うため基礎から専門に至る科目を体系的に配しており、カリキュラムマップによって教育課程の体系性、科目間の関連を分かりやすく示しています。

①自己の教育観を形成する上で必要な教育の基礎理論になる科目、自ら課題を発見し、問題の解決方



法を創造的に探求する能力を開発する演習科目、および保育の本質・目的に関わる科目の配置

- ②教育学・心理学分野を中心に児童・幼児教育の理論面を幅広く学ぶ科目、保育の対象を理解するための科目の配置
- ③小学校・幼稚園における各教科目の教育法・指導法に関する科目、保育の内容・方法、表現に関する科目の配置
- ④中学校における国語科の教育法・指導法および理論と内容に関する科目、幼稚園・保育所・小学校における国語教育に対応できる科目の配置
- ⑤教育実習およびその他の社会での教育活動を奨励する科目の配置
- ⑥小学校における外国語および外国語活動、幼稚園・保育所・中学校における国際理解教育に対応できる科目の配置

### 幼児保育学専攻

下記4領域において理論と実践を関連させながら高度な専門性を養うため基礎から専門に至る科目を体系的に配しており、カリキュラムマップによって教育課程の体系的性、科目間の関連を分かりやすく示しています。

- ①コミュニティと福祉の関連性を重視し、家族のあり方、子ども、就労、地域との関わりなどへの理解を深める科目の配置
- ②子どもの心と身体に関する様々な問題への理解を深める科目の配置
- ③保育士としては養育、保育の表現と技術を修得するための科目、幼稚園教諭としては教育に必要な基礎理論の科目の配置
- ④保育所保育、幼稚園教育について体験的に深く学ぶ科目の配置

## (4) 専門科目群

### 児童教育学専攻

- ・教育と保育の基礎理論となる科目(必修3科目、選択16科目：講義15科目、演習4科目)
- ・教育と保育の理論と内容に関する科目(選択47科目：講義27科目、演習20科目)
- ・教育と保育の実践を支える科目(選択27科目：演習27科目)
- ・国語教育を支える科目(選択26科目：講義22科目、演習4科目)
- ・実地教育に関わる科目(選択24科目：講義5科目、演習9科目、実習10科目)
- ・初等英語教育を支える科目(選択5科目：講義1科目、演習2科目、実習2科目)

### 幼児保育学専攻

- ・コミュニティと福祉に関する科目(選択6科目：講義5科目、演習1科目)
- ・心とからだに関する科目(選択9科目：講義4科目、演習5科目)
- ・保育と教育の理論と内容に関する科目(選択45科目：講義17科目、演習28科目)
- ・保育と教育の実践を支える科目(必修1科目、選択18科目：講義1科目、演習11科目、実習7科目)

### 3. 学修成果測定

- ・ルーブリックを用いたパフォーマンス評価による学修成果の可視化
- ・学修ポートフォリオによる学修成果の蓄積と確認
- ・保育・教育に関わる専門知識・技能に関する卒業論文（論文・作品製作・演奏等）の審査

### 4. 学修環境

学修成果を生み出すために以下のような学修環境を提供します。

- ・実習、プレゼンテーション、プロジェクト学習、ディベートなどのアクティブラーニングの実施
- ・海外スクールインターンシップ
- ・少人数教育を重視した教育（ゼミナール）
- ・演習を通じた内容の深い理解・体験
- ・基礎スキル育成のための入門的な科目（児童教育基礎演習、幼児保育基礎演習、情報、日本語、外国語）

特に、講義・演習・実習という科目を通じて、理論と実践を有機的に関連させながら、内容への理解を深めるとともに高い実践力を獲得させ、高度な専門性を身に付けさせます。

- 教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目と専門科目にわけて編成されています。そしてそれぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目区分には必修科目と選択科目および選択必修科目があり、体系的に修得するように各年次に配当されています。

#### **必修科目**

各専攻の教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目。

#### **選択科目**

各専攻の教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目。

#### **選択必修科目**

各専攻の教育課程のうち、特定の科目の中から一定の単位を必ず修得しなければならない科目。

- 上記のほか専攻によっては、各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、卒業の要件に含まれない科目もありますが、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。

全学共通科目

文学部開講科目

科 目	授 業 科 目	授 業 形 態	単位数		週 時 間 数								中 免 一 種	小 免 一 種	幼 免 一 種	保 育 士	備 考
			必 修	選 択	1 年		2 年		3 年		4 年						
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期					
人 間 形 成 科 目	建 学 の こ こ ろ	講義	1		○												[児童教育学専攻] 必修3単位を 含めて9単位以上 修得すること
	総 合 女 性 学	講義		2		2		2									
	キ ャ リ ア 入 門	講義		2		2		2									
一 般 教 育 科 目	哲 学 の 方 法	講義		2			2		2								[幼児保育学専攻] 必修3単位を 含めて11単位以上 修得すること
	心 の し く み	講義		2		2		2									
	文 学 の 表 現 と 鑑 賞	講義		2			2		2								
	歴 史 に 学 ぶ	講義		2			2		2								
	国 際 事 情	講義		2	2		2										
	日 本 国 憲 法	講義		2		2		2				○	○	○			
	く ら し の 経 済	講義		2	2		2										
	生 活 と 地 理	講義		2			2		2								
	数 学 の 世 界	講義		2				2		2							
	一 般 化 学	講義		2	2		2										
	生 命 の し く み	講義		2	2		2										
	生 活 の 物 理	講義		2		2		2									
	地 球 環 境 と 人 間	講義		2		2		2									
	初 年 次 セ ミ ナ ー	講義	2		2												
初 年 次 演 習	演習		1		2												
芸 術 科 目	音 楽	演習		1			2		2								
	美 術	演習		1				2	2								
	書 道	演習		1				2	2								
外 国 語 科 目	Basic English 1	演習	1		2							○	○	○		英語必修8単位を 含めて10単位以上 修得すること	
	Basic English 2	演習	1			2						○	○	○			
	Advanced English 1	演習	1				2										
	Advanced English 2	演習	1					2									
	総 合 英 語 A - 1	演習	1		2							○	○	○	○		
	総 合 英 語 A - 2	演習	1			2						○	○	○	○		
	総 合 英 語 B - 1	演習	1				2										
	総 合 英 語 B - 2	演習	1					2									
	初 級 フ ラ ン ス 語 1	演習		1	2		2										
	初 級 フ ラ ン ス 語 2	演習		1		2		2									
	中 級 フ ラ ン ス 語	演習		1			2		2								
	初 級 中 国 語 1	演習		1	2		2										
初 級 中 国 語 2	演習		1		2		2										
中 級 中 国 語	演習		1			2		2									
表 現 科 目	情 報 処 理 演 習 1	演習		1	2							○	○	○	○		
	情 報 処 理 演 習 2	演習		1		2						○	○	○	○		
	日 本 語 表 現 法 1	演習		1	2							○					
	日 本 語 表 現 法 2	演習		1		2						○					
健 康 科 目	健 康 科 学	講義		2	2		2								○	1 単位以上 修得すること	
	ス ポ ー ツ 1	実技		1	2		2					○	○	○	○		
	ス ポ ー ツ 2	実技		1		2		2				○	○	○	○		

- (注) 1. 教員免許状(中免一種、小免一種、幼免一種)を取得するためには、◎印<必修>の単位を修得すること。  
 2. 保育士資格を取得するためには、◎印<必修>、○印<選択>の単位を修得すること。  
 3. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。  
 4. 「初級フランス語2」または「初級中国語2」は、「初級フランス語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」または「初級中国語1」が「失格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。  
 5. 「中級フランス語」「中級中国語」は、「初級フランス語2」「初級中国語2」の単位を取得していないと履修できません。

全学共通科目

# 児童教育学科（児童教育学専攻・幼児保育学専攻）

## 児童教育学科

### 1. 教育目的について

児童教育学科は、子どもに関わる社会的・教育的背景を広く学び、教育の理論と時代の変化に対応できるコミュニケーション能力や実践力を身につけ、高い教養と専門性をもって、社会に貢献できる職能人としての教育者（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）の育成を目的とします。

### 2. 授業科目について

児童教育学科は、上で述べたように子どもの成長に関わる有能な教育者・保育者（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）を養成することを目的としています。したがって、本学科の学生には、将来の専門職への自覚を持って履修計画を立てること、卒業論文演習や卒業論文に代表される主体的に学ぶ機会を積極的に利用することを含め、常に継続的で勤勉な学習態度が要求されます。これらの蓄積を基盤にして、小学校・中学校・幼稚園での教育実習、保育所・施設での実習や介護等体験において実践的な学びが実現することになります。

本学科は、下記のように児童教育学専攻・幼児保育学専攻の2専攻を擁しますが、いずれの専攻においても、教育者・保育者としての確かな基礎を身に付けるとともに、理論と実践を関連させながら現場で求められる専門能力（知識・技能）が磨けるよう、基礎から専門に至る幅広い科目を体系的に配しています。

## 児童教育学科 児童教育学専攻

### 1. 教育目的について

教育・保育に関する専門的知識や技能に加えて、教育者に求められる豊かな人間性や社会性および英語指導力を身につけた高度な指導力のある幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士の育成を目的とします。

### 2. 授業科目について

人間の基礎力を養う豊かなカリキュラムを通して、有能な幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士および地域社会に貢献できる指導者になることのできる学生の育成をめざす専攻の目的に基づき、1) 教育と保育の基礎理論となる科目、2) 教育と保育の理論と内容に関する科目、3) 教育と保育の実践を支える科目、4) 国語教育を支える科目、5) 実地教育に関わる科目、6) 初等英語教育を支える科目の6領域を設けました。

- 1) の領域は、自分自身の教育観・保育観を形成する上で必要な基礎理論になる科目と、自ら課題を発見し、問題の解決方法を創造的に探究する能力を開発する演習科目とで構成されており、幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士にむけての素地を作る科目を配しました。
- 2) の領域は、児童教育・幼児教育の理論と内容を幅広く学べるように科目を充実させ、教育者・保育者として豊かな能力を身につけられるように構成された科目群を配しました。
- 3) の領域は、小学校・幼稚園・保育所における教育・保育の指導法を中心に配し、情報関連科目も充実させて教育者・保育者としての基礎的実践力を身につけられるように配慮された科目群を配しました。
- 4) の領域は、中学校における国語科の教育法・指導法および理論と内容に関する科目、幼稚園・保育所・小学校における国語教育に対応できる科目を設定し、国語に基づく文章理解・作成の能力および国語を通じた日本文化理解の力を養うことができるように科目群を配しました。

- 5) の領域は、教育・保育実習およびその他の社会での教育・保育活動を奨励する科目を設定し、実践力を高めるとともに地域社会に貢献できる姿勢や態度が育成できるよう配慮された科目群を配しました。
- 6) の領域は、小学校における外国語および外国語活動、幼稚園・保育所・中学校における国際理解教育・早期英語教育に対応できる科目を設定し、英語によるコミュニケーションの基礎的実践力を養うことができるように配慮された科目を配しました。
- 本専攻のカリキュラムの特徴は、児童教育を中心とし小学校と中学校・幼稚園・保育所との連携を意識し、幼児から児童に至る教育・保育上の理論面と実践面とを合わせて学ぶところにあります。

## 児童教育学科 幼児保育学専攻

### 1. 教育目的について

子どもの成長に関わる基礎的・専門的知識を広く学び、乳幼児の保育と地域の子育て環境づくりをサポートできる、高度な指導力を備えた保育士や幼稚園教諭の育成を目的とします。

### 2. 授業科目について

幼児保育学専攻は、上記の目的に基づき、1) コミュニティと福祉、2) 心とからだ、3) 保育と教育の理論と内容、4) 保育と教育の実践、の4つの領域を設けました。

- 1) の領域は、社会構造の変化に伴う女性を取り巻く諸問題すなわち家族のあり方、就労、地域との関わりなどへの理解を深め、女性の自己実現を支援する科目を配しました。また、福祉の観点から、地域活動を考える科目を設定し、コミュニティと福祉の関連を充実させました。
- 2) の領域は、子と母の心とからだに関する様々な問題の理解を図り、乳幼児の健全な発育と発達の援助ができる能力を育成する科目を配しました。
- 3) の領域は保育士としては養育、保育に対する表現と技術を習得するための科目、幼稚園教諭としては教育に必要な基礎理論の科目を総合的に配しました。
- 4) の領域は、上記の領域に関連して、実践力を高める科目を配しました。また、幅広い視野を養うために地域実践実習や幼児保育基礎演習を設けました。本専攻の教育課程の特徴は、保育内容と幼稚園教育内容に関連性を持たせた科目設定により、乳幼児の養育、保育、教育に対して総合的に学ぶことを可能にしている点にあります。

児童教育学科 児童教育学専攻 専門科目

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	週 時 間 数								免 許 ・ 資 格				小 中 教 育 コ ー ス	初 等 教 育 コ ー ス	幼 児 教 育 コ ー ス	備 考
			1 年		2 年		3 年		4 年		中 一 種	小 一 種	幼 一 種	保 育 士				
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期								
教育と保育の基礎理論となる科目	教 育 原 理 I	講義	2	2							○	○	○	○	○	○	○	
	教 育 原 理 II	講義		2					2		△	△	△	△	○	○	○	
	教 師 論	講義		2		2					○	○	△	○	○	○	○	
	教 職 入 門	講義		2		2					○	○	○		○	○	○	
	教 育 心 理 学	講義	2			2					○	○		△	○	○	○	
	道 徳 教 育 の 理 論 と 方 法	講義		2		2					○	○			○	○	○	
	教 育 の 方 法 と 技 術	演習		1				2			○	○	○		○	○	○	
	教 育 制 度 論	講義		2					2		☆	☆	☆		○	○	○	
	教 育 社 会 学	講義		2					2		☆	☆	☆		○	○	○	
	教 育 課 程 論	講義		2			2				○	○	○		○	○	○	
	保 育 の 計 画 と 評 価	講義		2			2							○			○	
	教 育 史	講義		2				2			△	△	△	△	○	○	○	
	特 別 支 援 教 育	講義		2			2				○	○	○	△	○	○	○	
	見 童 教 育 基 礎 演 習	演習	1		2										○	○	○	
	実 践 課 題 研 究 I	演習		1		2									○	○	○	
実 践 課 題 研 究 II	演習		1		2									○	○	○		
保 育 原 理	講義		2		2								○			○		
子 ども 家 庭 福 祉	講義		2					2					○			○		
社 会 福 祉	講義		2		2								○			○		
教育と保育の理論と内容に関する科目	生 徒 指 導 論	講義		2					2		○	○			○	○		
	進 路 指 導 論	講義		2					2		○	○			○	○		
	教 育 相 談 (カウセリングを含む)	講義		2				2			○	○			○	○		
	教 職 実 践 演 習 (幼・小・中)	演習		2					2		○	○	○		○	○		
	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 (幼稚園)	演習		2					2				☆	○			○	
	専 門 基 礎 科 目 I (理科系)	講義		2	2										○	○	○	
	専 門 基 礎 科 目 II (社会系)	講義		2		2									○	○	○	
	専 門 基 礎 科 目 III (数学系)	講義		2		2									○	○	○	
	国 語	講義		2		2						○	☆		○	○	○	
	書 道	演習		1						2					○	○	○	
	社 会 A	講義		2						2		☆			○	○	○	
	社 会 B	講義		2						2		☆			○	○	○	
	算 数 A	講義		2					2			○	☆		○	○	○	
	理 科 A	演習		1		2						☆			○	○	○	
	理 科 B	演習		1		2						☆			○	○	○	
	理 科 C	演習		1		2						☆			○	○	○	
	生 活 活 動	講義		2		2						○	☆		○	○	○	
	音 楽 演 習 I	演習		2	2	2						☆			○	○	○	
	音 楽 演 習 II	演習		2	2	2						☆			○	○	○	
	基 礎 造 形	演習		2	2	2						○	☆		○	○	○	
	体 育 演 習	演習		2		2	2			2		☆			○	○	○	
	家 庭 演 習	演習		2								○			○	○	○	
	講 義	講義		2					2			○			○	○	○	
	外 国 語 (英 語) 演 習 I	演習		2	2	2						○			○	○	○	
	外 国 語 (英 語) 演 習 II	演習		2		2	2					○			○	○	○	
	特 別 活 動 の 理 論 と 方 法	講義		2			2					○	○		○	○	○	
	綜 合 的 学 習 の 理 論 と 方 法	講義		2			2					○	○		○	○	○	
	幼 児 と 人 間 関 係	講義		1	1									○		○	○	
	幼 児 と 環 境	講義		1	1									○		○	○	
	幼 児 と 言 語	講義		1	1									○		○	○	
	幼 児 と 表 現	講義		1	1									○		○	○	
	幼 児 理 解 の 理 論 と 方 法	演習		2		2	2					○	△		○	○	○	
	子 ども の 理 解 と 援 助	演習		1					2			☆			○	○	○	
	子 ども の 発 達 心 理 学	講義		2	2										○	○	○	
	子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学	講義		2					2						○	○	○	
社 会 的 養 護 I	講義		2		2									○	○	○		
社 会 的 養 護 II	演習		1			2								○	○	○		
子 ども の 保 健	講義		2					2						○	○	○		
子 ども の 健 康 と 安 全	演習		1					2						○	○	○		
子 ども の 食 養 護	演習		2					2	2					○	○	○		
子 ども の 家 庭 支 援	講義		2					2	2					○	○	○		
子 育 て 支 援	演習		1					2						○	○	○		
保 育 内 容 総 論	演習		1			2							○	○	○	○		
乳 児 保 育 I	講義		2		2									○	○	○		
乳 児 保 育 II	演習		1			2								○	○	○		
障 害 児 保 育	演習		2				2	2				☆	○		○	○		
支える科目	子 ども の 科 学 実 験 指 導 法	演習		2	2										○	○	○	
	国 語 科 教 育 法 (書 写 を 含 む。)	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	外 国 語 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	社 会 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	算 数 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	理 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	生 活 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	音 楽 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	図 画 工 作 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	
	家 庭 科 教 育 法	演習		2			2	2				○			○	○	○	

児童教育学専攻

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	週 時 間 数								免 許 ・ 資 格				小 中 教 育 コ ー ス	初 等 教 育 コ ー ス	幼 児 教 育 コ ー ス	備 考
			1 年		2 年		3 年		4 年		中 一 種	小 一 種	幼 一 種	保 育 士				
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期								
教育と保育の実践を支える科目	保育内容演習(健康)Ⅰ	演習	1	2								○	○		○	○		
	保育内容演習(健康)Ⅱ	演習	1		2							○	○		○	○		
	保育内容演習(人間関係)Ⅰ	演習	1	2								○	○		○	○		
	保育内容演習(人間関係)Ⅱ	演習	1		2							○	○		○	○		
	保育内容演習(環境)Ⅰ	演習	1	2								○	○		○	○		
	保育内容演習(環境)Ⅱ	演習	1		2							○	○		○	○		
	保育内容演習(言葉)Ⅰ	演習	1	2								○	○		○	○		
	保育内容演習(言葉)Ⅱ	演習	1		2							○	○		○	○		
	保育内容演習(表現)AⅠ	演習	1	2								○	○		○	○		
	保育内容演習(表現)AⅡ	演習	1			2						○	○		○	○		
	保育内容演習(表現)BⅠ	演習	1	2								○	○		○	○		
	保育内容演習(表現)BⅡ	演習	1			2						○	○		○	○		
	保育内容の理解と方法(身体表現)	演習	1		2							○	○		○	○		
保育内容の理解と方法(言語表現)	演習	1	2								☆	○		○	○			
保育内容の理解と方法(音楽表現)	演習	1				2						○			○	○		
保育内容の理解と方法(造形表現)	演習	1				2						○			○	○		
国語教育を支える科目	中学国語科教育法Ⅰ	講義	2		2						○				○			
	中学国語科教育法Ⅱ	講義	2			2					○				○			
	中学国語科教育法Ⅲ	講義	2				2				○				○			
	中学国語科教育法Ⅳ	講義	2					2			○				○			
	日本語学概論(日本語音声学を含む)	講義	2	2							○				○			
	日本語学研究	講義	2			2					△				○			
	日本語学講義	講義	2				2				○				○			
	日本語学演習	演習	2					2			△				○			
	日本語史	講義	2		2						○				○			
	日本語文法論	講義	2				2				△				○			
	作文指導論	講義	2					2			△				○			
	読書指導論	講義	2						2		△				○			
	日本文学概論	講義	2	2							○				○			
	日本文学史Ⅰ	講義	2		2						○				○			
	日本文学史Ⅱ	講義	2			2					○				○			
	日本の文学Ⅰ	講義	2			2					☆				○			
	日本の文学Ⅱ	講義	2				2				☆				○			
	日本文学演習	演習	2					2			△				○			
	漢字表	講義	2			2					△				○			
	漢文	講義	2					2			○				○			
書道(書写を中心とする)	演習	2	2							○				○				
日本語文章論	講義	2						2						○				
日本文化概論	講義	2	2											○				
コミュニケーション論	講義	2		2										○				
日本語スピーチクリニック	演習	2			2									○				
比較文学	講義	2							2					○				
実地教育に関わる科目	教育実習(中)	実習	4						○		○				○			
	教育実習指導(中)	講義	1					1							○			
	教育実習(小)	実習	4						○			☆			○			
	教育実習指導(小)	講義	1					1				☆			○			
	教育実習(幼・小)	実習	4						○			☆	☆		○			
	教育実習指導(幼・小)	講義	1					1				☆	☆		○			
	教育実習(幼)Ⅰ	実習	4						○			☆	☆			○		
	教育実習指導(幼)Ⅰ	講義	1					1				☆	☆			○		
	教育実習(幼)Ⅱ	実習	2						○				△			○		
	教育実習指導(幼)Ⅱ	講義	1					1					△			○		
	介護等体験	実習	1					○				○	○		○	○		
	教育内容演習Ⅰ	演習	1							2					○	○		
	教育内容演習Ⅱ	演習	1								2				○	○		
	社会活動実習	実習	1								2				○	○	○	
	卒業論文演習Ⅰ	演習	1									○			○	○		
	卒業論文演習Ⅱ	演習	1									○			○	○		
	卒業論文演習Ⅲ	演習	1										○		○	○		
卒業論文	演習	6												○	○			
保育実習ⅠA	実習	2						○						○		○		
保育実習ⅠB	実習	2							○					○		○		
保育実習指導ⅠA	演習	1					2							○		○		
保育実習指導ⅠB	演習	1						2						○		○		
保育実習Ⅱ	実習	2							○					○		○		
保育実習指導Ⅱ	演習	1							2					○		○		
初等英語教育を支える科目	外国語(英語)演習Ⅲ	演習	2					2	2						○	○		
	外国語(英語)演習Ⅳ	演習	1							2					○	○		
	異文化理解論	講義	2						2						○	○		
	海外スクールインターンシップ	実習	4												○	○	○	
海外語学実習	実習	2												○	○			

(注) 1. 免許・資格欄の○印は、「中学校教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」「保育士資格」「幼稚園教諭一種免許状」それぞれの取得に必要な必修科目。  
△印は選択科目。☆印は、選択必修科目。  
2. コース欄の○印は、それぞれのコースに関連する科目。 3. 開講学年・時期は各学年度の授業計画により変更する場合がある。  
4. 「実践課題研究Ⅱ」は、「実践課題研究Ⅰ」を履修していないと履修できません。また「実践課題研究Ⅰ」が「失格」または「不合格」になった場合は、「実践課題研究Ⅱ」は履修できません。  
5. 「教育原理Ⅱ」は、「教育原理Ⅰ」の単位を取得していないと履修できません。



## 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。

### カリキュラムマップ

ディプロマポリシー（学位授与の方針）と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

### カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

# 〈児童教育学科児童教育学専攻〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標 (学修成果目標)

DP: ディプロマポリシー

①知識・理解	①DP1 児童・生徒・幼児を対象とした教育・保育の現状と課題を理解し、社会のグローバル化や保幼小連携および小・中連携等を視野に入れつつ、これからの教育者・保育者に求められる専門的知識を習得する。
②思考力・判断力・表現力	②DP2 豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力を基盤とし、複雑に変化し続ける教育・保育現場にも対応しうる深い思考・判断・表現の力および高度な指導力を身につける。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 子どもの成長に寄与する職人として、主体性や協調性を大切にしながら、様々な問題の解決に向けて創造的かつ協働的に向き合う態度を身につける。

## 科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	科目名	①	②	③
1	前期	建学のこころ	◎	◎	◎
		Basic English 1	◎	◎	◎
		総合英語A-1	◎	◎	◎
		情報処理演習1	◎	◎	◎
		日本語表現法1	◎	◎	◎
		初年次セミナー	◎	◎	◎
		教育原理I	◎	◎	◎
		専門基礎科目I(理科系)	◎	◎	◎
		幼児と健康	◎	◎	◎
		幼児と人間関係	◎	◎	◎
		幼児と環境	◎	◎	◎
		幼児と言葉	◎	◎	◎
		幼児と表現	◎	◎	◎
		子どもの発達心理学	◎	◎	◎
1・2	1・2	日本語学概論(日本語音声学を含む)	◎	◎	◎
		日本文学概論	◎	◎	◎
		日本文化概論	◎	◎	◎
		国際事情	◎	◎	◎
		くらしの経済	◎	◎	◎
		一般化学	◎	◎	◎
		生命のしくみ	◎	◎	◎
		初級フランス語1	◎	◎	◎
		初級中国語1	◎	◎	◎
		健康科学	◎	◎	◎
スポーツ1	◎	◎	◎		
通年	通年	音楽演習I	◎	◎	◎
		基礎造形	◎	◎	◎
		外国語(英語)演習I	◎	◎	◎
		Basic English 2	◎	◎	◎
		総合英語A-2	◎	◎	◎
		情報処理演習2	◎	◎	◎
		日本語表現法2	◎	◎	◎
		初年次演習	◎	◎	◎
		教職入門	◎	◎	◎
		児童教育基礎演習	◎	◎	◎
		理科A	◎	◎	◎
		生活	◎	◎	◎
		保育内容演習(健康)I	◎	◎	◎
		保育内容演習(人間関係)I	◎	◎	◎
保育内容演習(環境)I	◎	◎	◎		
1	後期	保育内容演習(言葉)I	◎	◎	◎
		保育内容演習(表現)A I	◎	◎	◎
		保育内容演習(表現)B I	◎	◎	◎
		日本文学史I	◎	◎	◎
		書道(書写を中心とする)	◎	◎	◎
		コミュニケーション論	◎	◎	◎
		総合女性学	◎	◎	◎
		キャリア入門	◎	◎	◎
		心のしくみ	◎	◎	◎
		日本国憲法	◎	◎	◎
		生活の物理	◎	◎	◎
		地球環境と人間	◎	◎	◎
		初級フランス語2	◎	◎	◎
		初級中国語2	◎	◎	◎
スポーツ2	◎	◎	◎		
1~4	1~4	海外スクールインターシップ	◎	◎	◎
		海外語学実習	◎	◎	◎

学年	期	科目名	①	②	③
2	前期	Advanced English 1	◎	◎	◎
		総合英語B-1	◎	◎	◎
		教師論	◎	◎	◎
		教育心理学	◎	◎	◎
		実践課題研究 I	◎	◎	◎
		保育原理	◎	◎	◎
		専門基礎科目II(社会系)	◎	◎	◎
		国語	◎	◎	◎
		理科B	◎	◎	◎
		社会的養護 I	◎	◎	◎
		乳児保育 I	◎	◎	◎
		保育内容演習(健康)II	◎	◎	◎
		保育内容演習(人間関係)II	◎	◎	◎
		保育内容演習(環境)II	◎	◎	◎
2・3	2・3	保育内容演習(言葉)II	◎	◎	◎
		保育内容の理解と方法(身体表現)	◎	◎	◎
		保育内容の理解と方法(言語表現)	◎	◎	◎
		中学国語科教育法 I	◎	◎	◎
		日本語史	◎	◎	◎
		日本文学史 II	◎	◎	◎
		哲学の方法	◎	◎	◎
		文学の表現と鑑賞	◎	◎	◎
		生活と地理	◎	◎	◎
		音楽	◎	◎	◎
		中級フランス語	◎	◎	◎
		中級中国語	◎	◎	◎
		音楽演習 II	◎	◎	◎
		体育演習	◎	◎	◎
2	後期	外国語(英語)演習 II	◎	◎	◎
		幼児理解の理論と方法	◎	◎	◎
		子どもの科学実験指導法	◎	◎	◎
		介護等体験	◎	◎	◎
		Advanced English 2	◎	◎	◎
		総合英語B-2	◎	◎	◎
		道徳教育の理論と方法	◎	◎	◎
		特別支援教育論	◎	◎	◎
		実践課題研究 II	◎	◎	◎
		社会福祉	◎	◎	◎
		専門基礎科目III(数学系)	◎	◎	◎
		理科C	◎	◎	◎
		特別活動の理論と方法	◎	◎	◎
		総合的学習の理論と方法	◎	◎	◎
2	前期	社会的養護 II	◎	◎	◎
		保育内容総論	◎	◎	◎
		乳児保育 II	◎	◎	◎
		保育内容演習(表現)A II	◎	◎	◎
		保育内容演習(表現)B II	◎	◎	◎
		中学国語科教育法 II	◎	◎	◎
		日本語学研究	◎	◎	◎
		日本の文学 I	◎	◎	◎
		漢字表現	◎	◎	◎
		日本語スピーチクリニック	◎	◎	◎
		教育実習指導(幼)I	◎	◎	◎
		教育実習指導(幼)II	◎	◎	◎
		保育実習指導 I A	◎	◎	◎
		歴史に学ぶ	◎	◎	◎
2・3	2・3	数学の世界	◎	◎	◎
		美術	◎	◎	◎
		書道	◎	◎	◎

学年	期	科目名	①	②	③
3	前期	教育課程論	◎	◎	◎
		保育の計画と評価	◎	◎	◎
		家庭	◎	◎	◎
		子どもの理解と援助	◎	◎	◎
		子ども家庭支援の心理学	◎	◎	◎
		子どもの保健	◎	◎	◎
		保育内容の理解と方法(音楽表現)	◎	◎	◎
		保育内容の理解と方法(造形表現)	◎	◎	◎
		中学国語科教育法 III	◎	◎	◎
		日本語学講義	◎	◎	◎
		日本語文法論	◎	◎	◎
		日本の文学 II	◎	◎	◎
		教育実習指導(小)	◎	◎	◎
		教育実習(幼)I	◎	◎	◎
教育実習(幼)II	◎	◎	◎		
3	通年	保育実習 I A	◎	◎	◎
		保育実習指導 I B	◎	◎	◎
		子どもの食と栄養	◎	◎	◎
		障害児保育	◎	◎	◎
		国語科教育法(書写を含む)	◎	◎	◎
		外国語科教育法	◎	◎	◎
		社会科教育法	◎	◎	◎
		算数科教育法	◎	◎	◎
		理科教育法	◎	◎	◎
		生活科教育法	◎	◎	◎
		音楽科教育法	◎	◎	◎
		図画工作科教育法	◎	◎	◎
		家庭科教育法	◎	◎	◎
		体育科教育法	◎	◎	◎
外国語(英語)演習 III	◎	◎	◎		
3	後期	教育の方法と技術	◎	◎	◎
		教育史	◎	◎	◎
		教育相談(カウンセリングを含む)	◎	◎	◎
		算数	◎	◎	◎
		子どもの健康と安全	◎	◎	◎
		子育て支援	◎	◎	◎
		中学国語科教育法 IV	◎	◎	◎
		日本語学演習	◎	◎	◎
		教育実習指導(中)	◎	◎	◎
		教育実習(小)	◎	◎	◎
		教育実習(幼・小)	◎	◎	◎
		保育内容演習 I	◎	◎	◎
		卒業論文演習 I	◎	◎	◎
		保育実習 I B	◎	◎	◎
保育実習 II	◎	◎	◎		
保育実習指導 II	◎	◎	◎		
異文化理解論	◎	◎	◎		
4	前期	教育原理 II	◎	◎	◎
		教育制度論	◎	◎	◎
		子ども家庭福祉	◎	◎	◎
		生徒指導論	◎	◎	◎
		書道	◎	◎	◎
		社会 A	◎	◎	◎
		社会 B	◎	◎	◎
		体育	◎	◎	◎
		子ども家庭支援論	◎	◎	◎
		作文指導論	◎	◎	◎
		日本文学演習	◎	◎	◎
		漢文学	◎	◎	◎
		日本語文章論	◎	◎	◎
		教育実習(中)	◎	◎	◎
保育内容演習 II	◎	◎	◎		
社会活動実習	◎	◎	◎		
卒業論文演習 II	◎	◎	◎		
4	通年	卒業論文	◎	◎	◎
		教育社会学	◎	◎	◎
		進路指導論	◎	◎	◎
		教職実践演習(幼・小・中)	◎	◎	◎
		保育・教職実践演習(幼稚園)	◎	◎	◎
		読書指導論	◎	◎	◎
		比較文学	◎	◎	◎
		卒業論文演習 III	◎	◎	◎
		外国語(英語)演習 IV	◎	◎	◎

児童教育学専攻

# 児童教育学科〈児童教育学専攻〉カリキュラムツリー

- (1) \*印の科目はいずれかの学年で履修できる。  
 (2) 科目名に記載の①②③は①DDP1、②DDP2、③DDP3を示す。  
 (3) 科目名が太字：必修科目、斜体：選択必修科目、資格関連科目については、教免必修科目▲、中免必修科目◆、小免必修科目◇、小免選択科目●、小免必修科目■、幼免選択科目□、保育士資格必修科目★、保育士選択科目☆と表記する。  
 (4) 資格関連の推奨科目については「履修要項」を参照のこと。

## ツリーの見方

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間形成	③建学のころ ①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①くらしの経済*	①総合女性学* ①キャリア入門* ①日本国憲法*▲ ①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間* ①くらしの経済*	①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①哲学の方法* ①生活と地理* ①くらしの経済* ②文学の表現と鑑賞*	②書道* ②美術*	①総合女性学* ①キャリア入門* ①日本国憲法*▲ ①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間* ①歴史に学ぶ* ①数学の世界*	②書道* ②美術*	①哲学の方法* ①生活と地理* ②文学の表現と鑑賞*	②書道* ②美術*	①歴史に学ぶ* ①数学の世界*	・人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報、表現、体育・健康科目から幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付ける。 ・専門科目の学修の基礎作りとなる知識や技能を身に付ける。
全学共通科目	①Basic English1 ▲ ①総合英語A-1 ▲★ ②初級フランス語1* ②初級中国語1* ①情報処理演習1 ▲★ ②日本語表現法1 ①健康科学** ②スポーツ1*▲☆	①Basic English2 ▲ ①総合英語A-2 ▲★ ②初級フランス語2* ②初級中国語2* ①情報処理演習2 ▲★ ②日本語表現法2 ①健康科学** ②スポーツ2*▲☆	①Advanced English 1 ①総合英語B-1 ②初級フランス語1* ②中級フランス語* ②初級中国語1* ②中級中国語*	②書道* ②美術*	①Advanced English 2 ①総合英語B-2 ②初級フランス語2* ②初級中国語2* ②中級中国語*	②書道* ②美術*	②中級フランス語* ②中級中国語*	②中級フランス語* ②中級中国語*		
情報・表現	①情報処理演習1 ▲★ ②日本語表現法1 ①健康科学** ②スポーツ1*▲☆	①情報処理演習2 ▲★ ②日本語表現法2 ①健康科学** ②スポーツ2*▲☆	①健康科学** ②スポーツ1*▲☆	②スポーツ2*▲☆						
教育と保育の基礎理論となる科目	①教育原理I ◆●■★ ①教職入門 ◆●■ ②児童教育基礎演習	②道徳教育の理論と方法 ◆● ①特別支援教育論 ◆●■☆ ①社会福祉★ ③実践課題研究II	①教師論 ◆●□★ ①教育心理学 ◆●■★ ①保育原理★ ③実践課題研究I	②道徳教育の理論と方法 ◆● ①特別支援教育論 ◆●■☆ ①社会福祉★ ③実践課題研究II	①教育課程論 ◆●■ ②教育の方法と技術 ◆●■ ①教育史 ◆□□☆ ①保育の計画と評価★	①教育原理II ◆□□☆ ①教育制度論 ◆□□ ①子ども家庭福祉★	①教育課程論 ◆●■ ②教育の方法と技術 ◆●■ ①教育史 ◆□□☆	①教育原理II ◆□□☆ ①教育制度論 ◆□□ ①子ども家庭福祉★	①教育原理II ◆□□☆ ①教育制度論 ◆□□ ①子ども家庭福祉★	・教育・保育及び教育者・保育者に関する基礎理論や研究のあり方を学び、専門家としての思考や判断の基礎を培う。
専門科目	①子ども発達心理学 □★	①理科A ○ ①生活 ●□	①理科B ○ ①国語 ●□ ②幼児理解の理論と方法 ■☆	②特別活動の理論と方法 ◆● ②総合的学習の理論と方法 ◆● ①理科C ○	②教育相談(カウンセリング)を含む ◆●■ ①算数 ●□	②教育相談(カウンセリング)を含む ◆●■ ①算数 ●□	②生徒指導論 ◆● ①書道 ● ①社会A ○ ①社会B ○ ②体育 ○□	②生徒指導論 ◆● ①書道 ● ①社会A ○ ①社会B ○ ②体育 ○□	②進路指導論 ◆●	・教育・保育に関する理論とその内容を深く学び、教育・保育実践のあり様と関連付けながら、教育者・保育者としての思考力・判断力、表現力等を培う。

<p>教育と保育の理論と内容に関する科目</p>	<p>①幼児と健康 ■ ①幼児と人間関係 ■ ①幼児と環境 ■ ①幼児と言葉 ■ ①幼児と表現 ■ ②音楽演習 I ○ ③基礎造形 ○ ④外国語 (英語) 演習 I ● ①専門基礎科目 I (理科系)</p>	<p>①社会的養護 I ★ → ①乳児保育 I ★ → ①保育内容総論 ■★ ②音楽演習 II ○ ②体育演習 ○ ②外国語 (英語) 演習 II ● ①専門基礎科目 II → (社会系) ①専門基礎科目 III (数学系)</p>	<p>①子ども家庭支援の心理学 ★ ①障害児保育 □★ ①子どもの食と栄養 ★ ①子どもの健康と安全 ★</p>	<p>①子ども家庭支援論 ★</p>	<p>・教育・保育に関する理論とその内容を深く学び、教育・保育実践のあり様と関連づけながら、教育者・保育者としての思考力・判断力・表現力等を培う。</p>
<p>専門科目</p>	<p>②保育内容演習 (健康) ■★ ②保育内容演習 (人間関係) ■★ ②保育内容演習 (環境) ■★ ②保育内容演習 (発達) ■★ ②保育内容演習 (言葉) ■★ ②保育内容演習 (表現) A I ■★ ②保育内容演習 (表現) B I ■★</p>	<p>②保育内容演習 (健康) ■★ ②保育内容演習 (人間関係) ■★ ②保育内容演習 (環境) ■★ ②保育内容演習 (発達) ■★ ②保育内容演習 (言葉) ■★ ②保育内容演習 (表現) A II ■★ ②保育内容演習 (表現) B II ■★ ②子どもの科学実験指導法</p>	<p>③国語科教育法 (書写を含む) ● ③外国語科教育法 ● ③社会科教育法 ● ③算数科教育法 ● ③理科教育法 ● ③生活科教育法 ● ③音楽科教育法 ● ③図画工作科教育法 ● ③家庭科教育法 ● ③体育科教育法 ●</p>	<p>③教職実践演習 (幼小・中) ◆◆□ ③保育・教職実践演習 (幼稚園) □★</p>	<p>・教育・保育の専門的知識・理論と関連づけながら、子どもの成長に寄与する職能人として求められる実践的な指導法や表現技術を習得する。</p>
<p>支える教育科目</p>	<p>①日本語概論 (日本語学を含む) ◆ ①日本文学史 I ◆ → ②書道 (慣習中心とする) ◆ ②コミュニケーション論</p>	<p>③中学国語科教育法 I ◆ ③中学国語科教育法 II ◆ ③中学国語科教育法 III ◆ ③中学国語科教育法 IV ◆ ①日本語学講義 ◆ → ①日本語文法論 ◆ ①日本の文学 I ◆ → ①日本の文学 II ◆ → ②漢字表現 ◆ ②日本語とワーキングメモリー</p>	<p>③国語科教育法 (書写を含む) ● ③外国語科教育法 ● ③社会科教育法 ● ③算数科教育法 ● ③理科教育法 ● ③生活科教育法 ● ③音楽科教育法 ● ③図画工作科教育法 ● ③家庭科教育法 ● ③体育科教育法 ●</p>	<p>①作文指導論 ◆ ②読書指導論 ◆ ①漢文学 ◆ ①日本語文論 ◆ ①比較文学 ◆ ③社会活動実習 ◆ ③教育内容演習 II ◆ ③教育実習 (中) ◆</p>	<p>・国語教育を支える理論や知識について学びを深め、その重要性を理解し、教育実践のあり様と関連づけながら、教育者としての思考力・判断力・表現力等を培う。</p>
<p>実地教育に関わる科目</p>	<p>③介護等体験 ◆◆</p>	<p>②教育実習指導 (小) ○ ②教育実習指導 (幼・小) ○□ ②教育実習 (幼) I □ ②教育実習 (幼) II □ ②保育実習 I A ★ ②保育実習指導 I B ★</p>	<p>②教育内容演習 I ○ ③教育実習 (小) ○ ③教育実習 (幼・小) ○□ ②教育実習指導 (中) ◆ ③保育実習 I B ★ ③保育実習指導 II ★ ③保育実習 II ★</p>	<p>②卒業論文演習 I (卒業論文) ②卒業論文演習 II (卒業論文) ③卒業論文</p>	<p>・教育・保育に関し習得してきた専門的知識・技術を実習等における経験と結びつけ、教育・保育の専門家としての学びを深める。 ・教育・保育の実践をより深く知ることで、主体性や協働性を大切にしながら創造的かつ協働的に問題に向き合うことの重要性を学ぶ。</p>
<p>初等英語教育を支える科目</p>	<p>③海外スクールインターンシップ ③海外語学実習</p>	<p>②外国語 (英語) 演習 III ③異文化理解論</p>	<p>②外国語 (英語) 演習 III ③異文化理解論</p>	<p>②外国語 (英語) 演習 IV ③卒業論文</p>	<p>・異文化理解の重要性を理解し、諸外国の言語や文化、コミュニケーションを学ぶことで、より豊かな人間性や社会性を培う。</p>

DP① 知識・理解

DP② 思考力・判断力・表現力

DP③ 主体性・多様性・協働性

DPの科目別目標はカリキュラムマップを参照

児童教育学科 幼児保育学専攻 専門科目

授 業 科 目	授 業 形 態	単位数		週 時 間 数								免許・資格		備 考
		必 修	選 択	1 年		2 年		3 年		4 年		保 育 士	幼 免 許	
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
コミュニティと福祉	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2							○		
	社会福祉Ⅰ	講義	2		2							○		
	社会福祉Ⅱ	講義	2							2		△		
	子ども家庭福祉Ⅰ	講義	2						2			○		
	子ども家庭福祉Ⅱ	演習	2							2	2	△		
	子ども家庭支援論	講義	2							2		○		
心とからだ	保育の心理学	講義	2	2								○	☆	
	臨床心理学	演習	2							2	2	△		
	幼児理解の理論と方法	演習	2			2	2					△	○	
	特別支援教育論	講義	2				2					△	○	
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2							2			○	
	子どもの保健	講義	2	2								○		
	子どもの健康と安全	演習	1			2						○		
	子どもの食と栄養	演習	2						2	2		○		
保育と教育の理論と内容	子どもの理解と援助	演習	1						2			○	☆	
	教師論	講義	2	2								○	○	
	教職入門	講義	2	2									△	
	教育制度論	講義	2							2			○	
	教育課程論	講義	2						2				○	
	保育の計画と評価	講義	2						2			○		
	保育原理Ⅰ	講義	2	2								○		
	保育原理Ⅱ	講義	2							2		△		
	社会的養護Ⅰ	講義	2		2							○		
	社会的養護Ⅱ	演習	1			2						○		
	幼児教育学原理	講義	2	2								○	○	
	教育史	講義	2							2			△	
	幼児教育心理学	講義	2			2						△	○	
	音楽演習	演習	1							2		△	☆	
	造形演習	演習	1						2			△	☆	
	教育の方法と技術	演習	1							2			○	
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2								2	○	○	
	保育内容総論Ⅰ	演習	1	2								○	○	
	保育内容総論Ⅱ	演習	1							2		△	☆	
	保育内容演習(健康)Ⅰ	演習	1			2						○	○	
保育内容演習(健康)Ⅱ	演習	1				2					○	○		
保育内容演習(人間関係)Ⅰ	演習	1			2						○	○		
保育内容演習(人間関係)Ⅱ	演習	1				2					○	○		
保育内容演習(環境)Ⅰ	演習	1			2						○	○		
保育内容演習(環境)Ⅱ	演習	1				2					○	○		
保育内容演習(言葉)Ⅰ	演習	1			2						○	○		
保育内容演習(言葉)Ⅱ	演習	1				2					○	○		

児童教育学科  
幼児保育学専攻

授 業 科 目	授 業 形 態	単位数		週 時 間 数								免許・資格		備 考	
		必 修	選 択	1 年		2 年		3 年		4 年		保 育 士	幼 児 免 許		
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
保育と教育の理論と内容	保育内容演習(表現)AⅠ	演習	1			2						○	○		
	保育内容演習(表現)AⅡ	演習	1				2					○	○		
	保育内容演習(表現)BⅠ	演習	1					2				○	○		
	保育内容演習(表現)BⅡ	演習	1						2			○	○		
	保育内容演習(遊びと文化)	演習	2					2	2			△	☆		
	幼児と言葉	講義	1		1									○	
	幼児と健康	講義	1		1									○	
	幼児と人間関係	講義	1		1									○	
	幼児と表現	講義	1		1									○	
	幼児と環境	講義	1		1									○	
	乳児保育Ⅰ	講義	2				2					○			
	乳児保育Ⅱ	演習	1					2				○			
	障害児保育	演習	2						2	2		○	☆		
	子育て支援	演習	1						2			○			
	保育内容の理解と方法(身体表現)	演習	2				2	2				○			
	保育内容の理解と方法(言語表現)	演習	2	2	2							○	☆		
	保育内容の理解と方法(音楽表現)Ⅰ	演習	2	2	2							○			
	保育内容の理解と方法(造形表現)	演習	2	2	2							○			
保育内容の理解と方法(音楽表現)Ⅱ	演習	2				2	2				△				
保育と教育の実践	保育実習ⅠA	実習	2					○				○			
	保育実習ⅠB	実習	2					○				○			
	保育実習指導ⅠA	演習	1			2						○			
	保育実習指導ⅠB	演習	1				2					○			
	保育実習Ⅱ	実習	2					○				○			
	保育実習指導Ⅱ	演習	1					2				○			
	保育実習Ⅲ	実習	2							○		△			
	保育実習指導Ⅲ	演習	1						2			△			
	幼稚園教育実習	実習	4							○				○	
	幼稚園教育実習指導	講義	1						1					○	
	地域実践実習	実習	1							○					
	幼児保育基礎演習	演習	1			2									
	幼児保育総合演習Ⅰ	演習	1							2					
	幼児保育総合演習Ⅱ	演習	1								2				
	卒業論文演習Ⅰ	演習	1							○					
	卒業論文演習Ⅱ	演習	1								○				
	卒業論文演習Ⅲ	演習	1									○			
	卒業論文	演習	6									○			
海外スクールインターンシップ	実習	4							○						

(注) 1. 免許・資格欄の○印は、「保育士資格」「幼稚園教諭一種免許状」それぞれの取得に必要な必修科目。  
△印は選択科目。☆印は、「幼一免許」の選択必修科目。ただし、幼一免許取得のため(P38, P39)、および保育士資格取得のため(P42, P43)、必要とされる単位数を踏まえて選択すること。  
2. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。

## 『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。

### カリキュラムマップ

ディプロマポリシー（学位授与の方針）と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

### カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

# 〈児童教育学科幼児保育学専攻〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標 (学修成果目標)

DP: ディプロマポリシー

①知識・理解	①DP1 主に乳幼児期の子どもの保育・教育について深く理解し、家庭や地域の子育て環境づくりに貢献するために求められる知識を習得する。
②思考力・判断力・表現力	②DP2 豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力を基盤とし、複雑に変化し続ける保育・教育現場にも対応しうる深い思考・判断・表現の力および高度な指導力を身につける。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 子どもの成長に寄与する職人として、主体性や協調性を大切にしながら、様々な問題の解決に向けて創造的かつ協働的に向き合う態度を身につける。

## 科目別目標

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	科目名	①	②	③	学年	期	科目名	①	②	③	学年	期	科目名	①	②	③						
1	前期	建学のこころ	◎	○	◎	2	前期	Advanced English 1	◎	○	○	3	前期	子どもの理解と援助	◎	◎	○						
		Basic English 1	◎	○	○			総合英語B-1	◎	○	○			教育課程論	◎	○	○						
		総合英語A-1	◎	○	○			子どもの健康と安全	◎	○	○			保育の計画と評価	◎	○	○						
		情報処理演習1	◎	○	○			社会的養護II	◎	○	○			造形演習	◎	◎	○						
		日本語表現法1	◎	◎	○			幼児教育心理学	◎	○	○			保育内容演習(表現)BI	◎	◎	○						
		初年次セミナー	◎	○	○			保育内容演習(健康)I	◎	◎	○			子育て支援	◎	○	○						
		保育の心理学	◎	○	○			保育内容演習(人間関係)I	◎	◎	○			保育実習IA	○	◎	◎						
		子どもの保健	◎	○	○			保育内容演習(環境)I	◎	◎	○			保育実習IB	○	◎	◎						
		教師論	◎	○	○			保育内容演習(言葉)I	◎	◎	○			保育実習II	○	◎	◎						
		教職入門	◎	○	○			保育内容演習(表現)AI	○	◎	○			保育実習指導II	◎	◎	○						
		保育原理I	◎	○	○			乳児保育I	◎	○	○			幼稚園教育実習指導	◎	◎	○						
		幼児教育学原理	◎	○	○			保育実習指導IA	◎	◎	○			子どもの食と栄養	◎	○	○						
		保育内容総論I	◎	○	○			哲学の方法	◎	○	○			保育内容演習(遊びと文化)	◎	◎	○						
		1・2	後期	国際事情	◎			○	○	2・3	後期			文学の表現と鑑賞	◎	◎	○	3	通年	障害児保育	◎	○	○
くらしの経済	◎			○	○	生活と地理	◎	○	○			子ども家庭福祉I	◎	○	○								
一般化学	◎			○	○	音楽	◎	◎	○			教育史	◎	○	○								
生命のしくみ	◎			○	○	中級フランス語	◎	◎	○			保育内容演習(表現)BII	◎	◎	○								
初級フランス語1	◎			◎	○	中級中国語	◎	◎	○			保育実習指導III	◎	○	○								
初級中国語1	◎			◎	○	通年	通年	幼児理解の理論と方法	◎			◎	○	幼稚園教育実習	○	◎	◎						
健康科学	◎			○	○			保育内容の理解と方法(身体表現)	◎			◎	○	幼児保育総合演習I	◎	◎	○						
スポーツ1	◎			◎	○			保育内容の理解と方法(音楽表現)II	◎			◎	○	卒業論文演習I	◎	◎	○						
通年	通年			保育内容の理解と方法(言語表現)	◎			◎	○			2	後期	Advanced English 2	◎	○	○			4	前期	社会福祉II	◎
				保育内容の理解と方法(音楽表現)I	◎	◎	○	総合英語B-2	◎					○	○	子ども家庭支援論	◎					○	○
		保育内容の理解と方法(造形表現)	◎	◎	○	特別支援教育論	◎	○	○	教育相談(カウンセリングを含む)	◎			◎	○								
		Basic English 2	◎	○	○	保育内容演習(健康)II	◎	◎	○	教育制度論	◎			○	○								
		総合英語A-2	◎	○	○	保育内容演習(人間関係)II	◎	◎	○	保育原理II	◎			○	○								
		情報処理演習2	◎	○	○	保育内容演習(環境)II	◎	◎	○	音楽演習	○			◎	○								
		日本語表現法2	◎	◎	○	保育内容演習(言葉)II	◎	◎	○	教育の方法と技術	◎			◎	○								
		初年次演習	◎	◎	○	保育内容演習(表現)AII	○	◎	○	保育内容総論II	○			◎	○								
		子ども家庭支援の心理学	◎	○	○	乳児保育II	◎	○	○	保育実習III	○			◎	◎								
		社会福祉I	◎	○	○	保育実習指導IB	○	◎	○	幼児保育総合演習II	◎			◎	○								
後期	後期	社会的養護I	◎	○	○	2・3	後期	歴史に学ぶ	◎	○	○	3	通年	子ども家庭福祉II	◎	◎	○						
		幼児と言葉	◎	○	○			数学の世界	◎	○	○			臨床心理学	◎	◎	○						
		幼児と健康	◎	○	○			美術	◎	◎	○			卒業論文	◎	◎	○						
		幼児と人間関係	◎	○	○			書道	◎	◎	○			保育・教職実践演習(幼稚園)	○	◎	◎						
		幼児と表現	◎	○	○			2~4	後期	地域実践実習	○			◎	◎	4	後期	卒業論文演習III	◎	◎	○		
		幼児と環境	◎	○	○					1・2	後期			総合女性学	◎			○	○				
		幼児保育基礎演習	◎	◎	○									キャリア入門	◎			○	○				
		1・2	後期	総合女性学	◎									○	○			心のしくみ	◎	○	○		
				Basic English 2	◎			○	○					日本国憲法	◎	○	○						
				総合英語A-2	◎			○	○					生活の物理	◎	○	○						
情報処理演習2	◎			○	○	地球環境と人間	◎	○	○														
日本語表現法2	◎			◎	○	初級フランス語2	◎	◎	○														
初年次演習	◎			◎	○	初級中国語2	◎	◎	○														
子ども家庭支援の心理学	◎			○	○	スポーツ2	◎	◎	○														
社会福祉I	◎			○	○	1~4	後期	海外スクールインターンシップ	○			◎	◎										
社会的養護I	◎			○	○																		

幼児教育学専攻



児童教育学科〈幼児保育学専攻〉カリキュラムツリー

- (1) \*印の科目はいずれかの学年で履修できる。  
 (2) 科目名に記載の①②③は①DP1、②DP2、③DP3を示す。  
 (3) 科目名が太字は必修科目、資格関連科目については、幼児必修科目 ■、幼児選択科目 □、保育士資格選択科目 ★、保育士資格必修科目 ☆と表記する。  
 (4) 資格関連の推奨科目については「履修要項」を参照のこと。

ツリーの見方

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
人間形成	③建学のころ ①総合女性学* ①キャリア入門*	①総合女性学* ①キャリア入門*	①総合女性学* ①キャリア入門*	①総合女性学* ①キャリア入門*					・人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報・表現、体育・健康科目から幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付ける。
一般教育	①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①地球環境と人間*	①日本国憲法* ■ ①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間*	①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①哲学の方法* ①生活と地理* ①くらしの経済* ②文学の表現と鑑賞*	①日本国憲法* ■ ①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間* ①歴史に学ぶ* ①数学の世界* ②文学の表現と鑑賞*	①哲学の方法* ①生活と地理* ②文学の表現と鑑賞*	①歴史に学ぶ* ①数学の世界*			・専門科目の学修の基礎作りとなる知識や技能を身に付ける。
全学共通科目	①初年次セミナー	①初年次演習	②音楽* ②書道* ②美術*	②書道* ②美術*	②音楽* ②書道* ②美術*	②書道* ②美術*			
外国語	①Basic English1 ■ ①総合英語A-1 ■★ ②初級フランス語1* ②初級中国語1*	①Basic English2 ■ ①総合英語A-2 ■★ ②初級フランス語2* ②初級中国語2*	①Advanced English1 ①総合英語B-1 ②初級フランス語1* ②中級フランス語* ②初級中国語1* ②中級中国語*	①Advanced English2 ①総合英語B-2 ②初級フランス語2* ②中級フランス語* ②初級中国語2* ②中級中国語*					
情報・表現	①情報処理演習1 ■★ ②日本語表現法1	①情報処理演習2 ■★ ②日本語表現法2	①健康科学* ★ ①スポーツ1* ■☆	①健康科学* ★ ①スポーツ2* ■☆					
体育・健康	①健康科学* ★ ②スポーツ1* ■☆	②スポーツ2* ■☆							
専門科目	①保育の心理学 □★ ①子どもの保健 ★	①子ども家庭支援の心理学 ★ ①社会福祉I ★	②幼児理解の理論と方法 ■☆ ①子どもの健康と安全、①特別支援教育論 ★ ■☆	②スポーツ2* ■☆	①子ども家庭福祉I ★ ①子どもの食と栄養 ★ ②子どもの理解と援助 □★	①子ども家庭福祉I ☆ ①子どもの食と栄養 ★ ②子どもの理解と援助 □★	①社会福祉II ☆ → ②子ども家庭福祉II ☆ ①子ども家庭支援論 ★	②臨床心理学 ☆ ②教育相談(カウンセリングを含む) ■	・家庭や地域の子育て環境に貢献するために求められる、福祉やコミュニティに関する考え方や知識を習得する。
心からた									・子どもの心やからだに関する専門的知識を習得し、その成長に寄与し支援する職能人としてのあり方を学ぶ。

科目分類	1 年		2 年		3 年		4 年		到達目標	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
保育と教育の理論と内容 専門科	①教師論 ■★ ①教職入門 □ ①幼児教育学原理 ■★	①社会的養護 I ★ → ①保育原理 I ★ ①保育内容総論 I ■★	①幼児教育心理学 ■★ ①乳児保育 I ★ → ②社会的養護 II ★	①乳児保育 II ★ ②保育内容演習 (言葉) II ■★ ②保育内容演習 (健康) II ■★ ②保育内容演習 (人間関係) II ■★ ②保育内容演習 (表現) A I ■★ ②保育内容演習 (環境) II ■★ ②保育内容の理解と方法 (言語表現) □★ ②保育内容の理解と方法 (音楽表現) I ★ ②保育内容の理解と方法 (造形表現) ★	①教育課程論 ■ ①子育て支援 ★ ①保育の計画と評価 ★	①教育史 □ ①障害児保育 □★	①教育制度論 ■ ②教育の方法と技術 ■ ①保育原理 II ☆ ②保育内容総論 II □☆	②音楽演習 □☆	③保育・教職実践演習 (幼稚園) ■★	・保育・教育に関する専門的知識や理論の内容を深く学び、保育・教育の専門家としての視野を広げ、また、保育・教育実践において求められる高度な思考力・判断力・表現力を培う。
	②保育内容の理解と方法 (言語表現) □★ ②保育内容の理解と方法 (音楽表現) I ★ ②保育内容の理解と方法 (造形表現) ★	②保育実習指導 I A ★ ②保育実習指導 I B ★	③保育実習 I A ★ ③保育実習 I B ★ ②保育実習指導 II ★ ③保育実習 II ★ ②幼稚園教育実習指導 ■ ③幼稚園教育実習 ■	②保育実習指導 III ☆ → ③保育実習 III ☆	②保育内容演習 (表現) B II ■★ ②保育内容演習 (遊びと文化) □☆	③保育実習 III ☆	③保育実習 III ☆	②音楽演習 □☆	・保育・教育に関する専門的知識および表現技術等と保育・教育実践現場における経験を結びつけ、専門家としての学びを深める。 ・保育・教育の実際をより深く知ることで、主体性や協働性を大切にしながら創造的かつ協働的に問題に向き合うことの重要性を学ぶ。	
保育と教育の実践	②幼児保育基礎演習	③海外スクールインターンシップ	③地域実践実習	②卒業論文演習 I ②卒業論文演習 II ③卒業論文	②卒業論文演習 I ②卒業論文演習 II ③卒業論文	②幼児保育総合演習 I ②幼児保育総合演習 II				

DP① 知識・理解

DP② 思考力・判断力・表現力

DP③ 主体性・多様性・協働性

DPの科目別目標はカリキュラムマップを参照

# IV. 免許・資格

## 1. 教員免許状

〔1〕 文学部児童教育学科で教員免許状授与の所要資格を取得できる免許状は次のとおりです。

学科・専攻		免許状の種類	
児童教育学科	児童教育学専攻	小中教育コース	中学校教諭一種免許状（国語） 小学校教諭一種免許状
		初等教育コース	小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状
		幼児教育コース	幼稚園教諭一種免許状
	幼児保育学専攻	幼稚園教諭一種免許状	

〔2〕 教員免許状を取得するためには、大学を卒業し（学士の学位を有し）、「教育職員免許法及び同法施行規則」に定められた科目を履修し、所定の単位数を修得しなければなりません。

- 1) 免許状の種類にかかわらず「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」について、それぞれ2単位以上を修得しなければなりません。（29ページ、表1）
- 2) 法により免許状の種類ごとに「教科及び教職に関する科目」の最低修得単位数がそれぞれ規定されています。（下表）

免許状の種類	基礎資格	「教科及び教職に関する科目」の最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	28	/	27	4
小学校教諭一種免許状		30		27	2
幼稚園教諭一種免許状		/	16	21	14

（注）この表で示しているのは、法規上の最低修得単位数です。本学で必要とする単位数は30ページ以降の各表に示してあります。

免許状の種類ごとの履修方法を、中学校・小学校・幼稚園（表2-1～2-10）に載せていますので、それに基づいて必要な科目及び単位数を修得してください。なお、中学校・小学校・幼稚園用の表内の科目のうち、科目名に○印が付されている授業科目は、各免許状を取得する場合の必修科目です。

### 〔3〕その他

#### 1) 教育実習の履修について

教育実習の単位修得には、「学校現場における実習」（中学校4単位、小学校4単位、幼稚園4単位）と「事前及び事後の指導」（1単位）が必要です。

事前及び事後の指導の授業科目として、「教育実習指導」を開講しています。その授業内容は次のとおりです。

##### 1. 事前指導

- (1) オリエンテーション
- (2) 教育実習の心得
- (3) 教科指導能力の向上
- (4) 生徒指導能力の向上

##### 2. 事後指導

- (1) 実習記録の整理、報告書作成指導（実習終了後1週間以内）
- (2) 教育実習報告会での反省と自己評価

教育実習校の決定にあたっては、各専攻の指導に従ってください。なお実習校決定後はその変更はできません。また成績が著しく不振な場合は、実習が認められないことがあります。

実習にあたっては、本学及び実習校の指示に従わなくてはなりません。もしもその指示に反した場合には、実習を中止させられることがあります。教育実習を履修する学生は、教育実習にかかる経費が必要となります。

#### 2) 教員免許状の授与申請について

##### 1. 介護等の体験

中学校・小学校の教員免許状の授与を受けようとする者は、特別支援学校及び社会福祉施設等その他文部科学省令で定められた施設において7日以上障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行い、その証明書が必要です。

介護等の体験を希望する者は、体験の事前指導を受けるとともに、介護等の体験にかかる経費が必要となります。

##### 2. 申請手続

教員免許状は、本学で一括して申請し、卒業式当日に渡します。それに必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。



〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕

(表1)

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分		本学における開設科目	授業形態	単位数	週 時 間 数								
科 目	最低修得単位数				1 年		2 年		3 年		4 年		
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
日 本 国 憲 法	2	○ 日 本 国 憲 法	講義	2		2		2					
体 育	2	○ ス ポ ー ツ 1	実技	1	2		2						
		○ ス ポ ー ツ 2	実技	1		2		2					
外国語コミュニケーション	2	◎ Basic English 1	演習	1	2								
		◎ Basic English 2	演習	1		2							
		◎ 総 合 英 語 A - 1	演習	1	2								
		◎ 総 合 英 語 A - 2	演習	1		2							
情報機器の操作	2	○ 情 報 処 理 演 習 1	演習	1	2								
		○ 情 報 処 理 演 習 2	演習	1		2							
備 考	1. ◎印は、卒業必修科目 2. ○印は、免許必修科目												

中一種免(国語)〔教科及び教科の指導法に関する科目〕

児童教育学科 児童教育学専攻  
(表2-1)

免許法施行規則に定める科目区分等		中学校教諭一種免許状	
科 目	最低修得 単位数	本学における開設科目	単位数
国 語 学 (音声言語及び文章表現 に関するものを含む。)	1単位以上	○ 日本語学概論(日本語音声学を含む) 日本語学研究 ○ 日本語学講義 日本語学演習 ○ 日本語史 日本語文法論 ○ 日本語表現法 1 ○ 日本語表現法 2 作文指導論 読書指導論	2 2 2 2 2 1 1 2 2
国 文 学 (国文学史を含む。)	1単位以上	○ 日本文学概論 ○ 日本文学史 I ○ 日本文学史 II	2 2 2
		△ 日本の文学 I △ 日本の文学 II	2 2
		日本文学演習	2
漢 文 学	1単位以上	漢字表現 ○ 漢文学	2 2
書道(書写を中心とする。)	1単位以上	○ 書道(書写を中心とする)	2
各教科の指導法 (情報機器及び教材の 活用を含む。)	1単位以上	○ 中学国語科教育法 I ○ 中学国語科教育法 II ○ 中学国語科教育法 III ○ 中学国語科教育法 IV	2 2 2 2
合 計		必修を含めて28単位以上修得すること	
備 考	1. ○印は、免許必修科目 2. △印は、いずれかの科目を選択必修		

免許法施行規則に定める科目区分等			中学校教諭一種免許状	
科目	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	本学における開設科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原理Ⅰ	2
			教育原理Ⅱ	2
			教育史	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○ 教師論	2
			○ 教職入門	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		△ 教育制度論	2
	△ 教育社会学	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育論	2
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○ 教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	○ 道徳教育の理論と方法	2
	総合的な学習の時間の指導法		○ 総合的な学習の理論と方法	2
	特別活動の指導法		○ 特別活動の理論と方法	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		○ 教育の方法と技術	1
	生徒指導の理論及び方法		○ 生徒指導論	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○ 教育相談 (カウンセリングを含む)	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	○ 進路指導論	2	
教育実践に関する科目	教育実習	5	○ 教育実習(中)	4
			○ 教育実習指導(中)	1
	教職実践演習	2	○ 教職実践演習(幼・小・中)	2
備 考		1. ○印は、免許必修科目 2. △印は、いずれかの科目を選択必修		

〔大学が独自に設定する科目〕

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、合わせて4単位以上を修得してください。



小一種免〔教科及び教科の指導法に関する科目〕

児童教育学科 児童教育学専攻

(表2-3)

教員免許状  
(児童教育学専攻教科又は教職)

免許法施行規則に定める科目区分等			小学校教諭一種免許状	
科目	各科目に含める必要事項	最低修得 単位数	本学における開設科目	単位数
教科に関する 専門事項	国語(書写を含む。)	30	○国語	2
			○書道	1
	社会		(△社会A	2
			△社会B	2
	算数		○算数	2
	理科		(□理科A	2
			□理科B	1
			□理科C	1
	生活		○生活	2
	音楽		(△音楽演習Ⅰ	2
	△音楽演習Ⅱ	2		
図画工作	○基礎造形	2		
家庭	○家庭	2		
体育	(△体育	2		
	△体育演習	2		
外国語	○外国語(英語)演習Ⅰ	2		
	○外国語(英語)演習Ⅱ	2		
各教科の指導法 (情報機器及び 教材の活用を含 む。)	国語(書写を含む。)	○国語科教育法(書写を含む。)	2	
	社会	○社会科教育法	2	
	算数	○算数科教育法	2	
	理科	○理科教育法	2	
	生活	○生活科教育法	2	
	音楽	○音楽科教育法	2	
	図画工作	○図画工作科教育法	2	
	家庭	○家庭科教育法	2	
	体育	○体育科教育法	2	
	外国語	○外国語科教育法	2	
備考		1. ○印は、免許必修科目 2. △印は、いずれかの科目を選択必修 3. □印は、いずれかの科目を2単位以上選択必修		

免許法施行規則に定める科目区分等			小学校教諭一種免許状	
科目	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	本学における開設科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原理Ⅰ	2
			○ 教育原理Ⅱ	2
			○ 教育史	2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○ 教師論	2
			○ 教職入門	2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		△ 教育制度論	2
	△ 教育社会学	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育論	2
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○ 教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	○ 道徳教育の理論と方法	2
	総合的な学習の時間の指導法		○ 総合的な学習の理論と方法	2
	特別活動の指導法		○ 特別活動の理論と方法	2
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		○ 教育の方法と技術	1
	生徒指導の理論及び方法		○ 生徒指導論	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○ 教育相談(カウンセリングを含む)	2
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		○ 進路指導論	2
教育実践に関する科目	教育実習	5	□ 教育実習(小)	4
			□ 教育実習(幼・小)	4
			◇ 教育実習指導(小)	1
			◇ 教育実習指導(幼・小)	1
	教職実践演習	2	○ 教職実践演習(幼・小・中)	2
備 考		1. ○印は、免許必修科目 2. △□◇印は、それぞれの印でいずれかの科目を選択必修 3. 小中教育コースは「教育実習(小)」と「教育実習指導(小)」を、初等教育コースは「教育実習(幼・小)」と「教育実習指導(幼・小)」を履修		

〔大学が独自に設定する科目〕

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、合わせて2単位以上を修得してください。

幼一種免〔領域及び保育内容の指導法に関する科目〕

児童教育学科 児童教育学専攻  
(表2-5)

(児童教育学専攻教科(又は教職))  
教員免許状

免許法施行規則に定める科目区分等			幼稚園教諭一種免許状	
科目	各科目に含める必要事項	最低修得 単位数	本学における開設科目	単位数
領域に関する 専門的事項	健康	16	○ 幼児と健康	1
	人間関係		○ 幼児と人間関係	1
	環境		○ 幼児と環境	1
	言葉		○ 幼児と言葉	1
	表現		○ 幼児と表現	1
保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			○ 保育内容総論	1
			○ 保育内容演習(健康)Ⅰ	1
			○ 保育内容演習(健康)Ⅱ	1
			○ 保育内容演習(人間関係)Ⅰ	1
			○ 保育内容演習(人間関係)Ⅱ	1
			○ 保育内容演習(言葉)Ⅰ	1
			○ 保育内容演習(言葉)Ⅱ	1
			○ 保育内容演習(環境)Ⅰ	1
			○ 保育内容演習(環境)Ⅱ	1
			○ 保育内容演習(表現)AⅠ	1
			○ 保育内容演習(表現)AⅡ	1
	○ 保育内容演習(表現)BⅠ	1		
	○ 保育内容演習(表現)BⅡ	1		
備 考			○印は、免許必修科目	

免許法施行規則に定める科目区分等			幼稚園教諭一種免許状	
科目	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	本学における開設科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 教育原理Ⅰ 教育原理Ⅱ 教育史	2 2 2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教師論 ○ 教職入門	2 2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		△ 教育制度論 △ 教育社会学	2 2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育論	2
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○ 教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	○ 教育の方法と技術	1
	幼児理解の理論及び方法		○ 幼児理解の理論と方法	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○ 教育相談(カウンセリングを含む)	2
教育実践に関する科目	教育実習	5	□ 教育実習(幼)Ⅰ □ 教育実習(幼・小) 教育実習(幼)Ⅱ ◇ 教育実習指導(幼)Ⅰ ◇ 教育実習指導(幼・小) 教育実習指導(幼)Ⅱ	4 4 2 1 1 1
	教職実践演習		2	☆ 教職実践演習(幼・小・中) ☆ 保育・教職実践演習(幼稚園)
備 考		1. ○印は、免許必修科目 2. △□◇☆印は、いずれかの科目を選択必修 3. 幼児教育コースは「教育実習(幼)Ⅰ」、「教育実習指導(幼)Ⅰ」、「保育・教職実践演習(幼稚園)」を、初等教育コースは「教育実習(幼・小)」、「教育実習(幼)Ⅱ」、「教育実習指導(幼・小)」、「教育実習指導(幼)Ⅱ」、「教職実践演習(幼・小・中)」を履修		

幼一種免〔大学が独自に設定する科目〕

児童教育学科 児童教育学専攻  
(表2-7)

免許法施行規則に定める科目区分等		幼稚園教諭一種免許状	
科目		本学における開設科目	単位数
大学が独自に設定する科目		子どもの発達心理学	2
		子どもの理解と援助	1
		障害児保育	2
		保育内容の理解と方法（言語表現）	1
		基礎造形	2
		国語	2
		算数	2
		生活	2
		体育	2
備考	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、合わせて14単位以上を修得すること。		



幼一種免〔領域及び保育内容の指導法に関する科目〕

児童教育学科 幼児保育学専攻

(表2-8)

教員免許状  
(幼児保育学専攻教員又は教諭)

免許法施行規則に定める科目区分等			幼稚園教諭一種免許状	
科目	各科目に含める必要事項	最低修得 単位数	本学における開設科目	単位数
領域に関する 専門的事項	健康	16	○ 幼児と健康	1
	人間関係		○ 幼児と人間関係	1
	環境		○ 幼児と環境	1
	言葉		○ 幼児と言葉	1
	表現		○ 幼児と表現	1
保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			○ 保育内容総論 I	1
			○ 保育内容演習(健康) I	1
			○ 保育内容演習(健康) II	1
			○ 保育内容演習(人間関係) I	1
			○ 保育内容演習(人間関係) II	1
			○ 保育内容演習(環境) I	1
			○ 保育内容演習(環境) II	1
			○ 保育内容演習(言葉) I	1
			○ 保育内容演習(言葉) II	1
			○ 保育内容演習(表現) A I	1
			○ 保育内容演習(表現) A II	1
	○ 保育内容演習(表現) B I	1		
	○ 保育内容演習(表現) B II	1		
備 考			○印は、免許必修科目	

幼一種免〔教育の基礎的理解に関する科目等〕

児童教育学科 幼児保育学専攻  
(表2-9)

教員免許状  
(幼児保育学専攻教職)

免許法施行規則に定める科目区分等			幼稚園教諭一種免許状	
科目	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	本学における開設科目	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	○ 幼児教育原理 教育史	2 2
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		○ 教師論 教職入門	2 2
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		○ 教育制度論	2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		○ 幼児教育心理学	2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		○ 特別支援教育論	2
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		○ 教育課程論	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	○ 教育の方法と技術	1
	幼児理解の理論及び方法		○ 幼児理解の理論と方法	2
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		○ 教育相談 (カウンセリングを含む)	2
教育実践に関する科目	教育実習	5	○ 幼稚園教育実習 ○ 幼稚園教育実習指導	4 1
	教職実践演習	2	○ 保育・教職実践演習(幼稚園)	2
備 考		○印は、免許必修科目		

幼一種免〔大学が独自に設定する科目〕

児童教育学科 幼児保育学専攻  
(表2-10)

免許法施行規則に定める科目区分等		幼稚園教諭一種免許状	
科目		本学における開設科目	単位数
大学が独自に設定する科目		保育の心理学 子どもの理解と援助 音楽演習 造形演習 保育内容総論Ⅱ 保育内容演習(遊びと文化) 障害児保育 保育内容の理解と方法(言語表現)	2 1 1 1 1 2 2 2
備 考	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、合わせて14単位以上を修得すること。		



## 2-1. 保育士資格（児童教育学科 児童教育学専攻 幼児教育コース）

### 保育士資格について

児童教育学専攻幼児教育コースでは、児童福祉法に定められた保育士の資格を取得することができます。保育士とは、登録センターに登録をし、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者を指します。

保育士資格に必要な科目・単位数は大きく教養科目と指定科目に分けられます。

#### 1) 教養科目 11単位以上

全学共通科目のうち保育士資格の教養科目として指定されている科目（総合英語A-1、総合英語A-2の2単位、情報処理演習1・2の2単位、健康科学2単位、スポーツ1・2から1単位）を含んで、11単位以上を履修しなければなりません。

#### 2) 指定科目 必修61単位(保育実習含む)、選択必修科目10単位 計71単位

開設科目71単位全てを修得する必要があります。

#### 3) 保育実習について

保育所保育を体験的に深く学ぶと共に、福祉施設における多様な保育が実践できる力を養うため、指定科目にあるすべての保育実習を必修としています。保育実習を履修する学生は、所定の単位を修得し、実習費用を納めなければなりません。

実習の種類	単位数	おおむねの実習日数	実習施設
保育実習 I A	2 単位	10日間	A
保育実習 I B	2 単位	10日間	B
保育実習指導 I A	1 単位	—	—
保育実習指導 I B	1 単位	—	—
保 育 実 習 II	2 単位	10日間	A
保育実習指導 II	1 単位	—	—

#### \*実習施設

A：保育所、幼保連携型認定こども園

B：乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所

## 保育士の資格を取得するための開設科目

(1) 教養科目11単位以上

教 養 科 目	(外国語科目、体育・健康科目以外の教養科目 外国語科目 体育・健康科目             )	6 単位以上	計11単位以上
		講義 2 単位 実技 1 単位以上             )	
(単位の修得方法等は、全学共通科目の表を参照)			

(2) 指定科目71単位以上

系 列	開 設 科 目	授業 形態	保育士資格取得に必要な修得単位数(*)		備 考
			必 修	選 択	
保育の本質・目的 に関する科目	保 育 原 理	講義	2		
	教 育 原 理 I	講義	2		
	教 育 原 理 II	講義		2	
	子 ども 家 庭 福 祉	講義	2		
	社 会 福 祉	講義	2		
	子 ども 家 庭 支 援 論	講義	2		
	社 会 的 養 護 I	講義	2		
	教 師 論	講義	2		
保育の対象の理解 に関する科目	教 育 史	講義		2	
	特 別 支 援 教 育 論	講義		2	
	子 ども の 発 達 心 理 学	講義	2		
	子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学	講義	2		
	子 ども の 理 解 と 支 援	演習	1		
	子 ども の 保 健	講義	2		
	子 ども の 食 と 栄 養	演習	2		
保育の内容・方法 に関する科目	教 育 心 理 学	講義		2	
	幼 児 理 解 の 理 論 と 方 法	演習		2	
	保 育 の 計 画 と 評 価	講義	2		
	保 育 内 容 総 論	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 健 康 ) I	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 健 康 ) II	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 人 間 関 係 ) I	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 人 間 関 係 ) II	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 環 境 ) I	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 環 境 ) II	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 言 葉 ) I	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 言 葉 ) II	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 表 現 ) A I	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 表 現 ) A II	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 表 現 ) B I	演習	1		
	保 育 内 容 演 習 ( 表 現 ) B II	演習	1		
	保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 ( 音 楽 表 現 )	演習	1		
	保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 ( 造 形 表 現 )	演習	1		
	保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 ( 身 体 表 現 )	演習	1		
	保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 ( 言 語 表 現 )	演習	1		
	乳 児 保 育 I	講義	2		
	乳 児 保 育 II	演習	1		
	子 ども の 健 康 と 安 全	演習	1		
	障 害 児 保 育	演習	2		
	社 会 的 養 護 II	演習	1		
	子 育 て 支 援	演習	1		
	保 育 実 習	保 育 実 習 I A	実習	2	
保 育 実 習 I B		実習	2		
保 育 実 習 II		実習	2		
保 育 実 習 指 導 I A		演習	1		
保 育 実 習 指 導 I B		演習	1		
保 育 実 習 指 導 II		演習	1		
総 合 演 習	保 育 ・ 教 職 実 践 演 習 ( 幼 稚 園 )	演習	2		
合 計			61	10	

(\*) 必修・選択は児童福祉法に定められているが、児童教育学専攻は、すべての科目を履修のこと。

## 2-2. 保育士資格（児童教育学科 幼児保育学専攻）

### 保育士資格について

幼児保育学専攻では、児童福祉法に定められた保育士の資格を取得することができます。保育士とは、登録センターに登録をし、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者を指します。

保育士資格取得に必要な科目・単位数は大きく教養科目と指定科目とに分けられます。

#### 1) 教養科目 11単位以上

全学共通科目のうち保育士資格の教養科目として指定されている科目（総合英語A-1、A-2の2単位、情報処理演習1・2の2単位、健康科学2単位、スポーツ1・2から1単位）を含んで、11単位以上を履修しなければなりません。

#### 2) 指定科目 74単位以上（43ページ）

#### 3) 実習について

保育所保育を体験的に深く学ぶと共に、福祉施設における多様な保育が実践できる力を養うため、本専攻では指定科目にあるすべての保育実習を必修としています。（ただし、保育実習Ⅲは選択）保育実習を履修する学生は、所定の単位を修得し、実習費用を納めなければなりません。

実習の種類	単位数	おおむねの実習日数	実習施設
保育実習ⅠA	2単位	10日間	A
保育実習ⅠB	2単位	10日間	B
保育実習指導ⅠA	1単位	—	—
保育実習指導ⅠB	1単位	—	—
保育実習Ⅱ	2単位	10日間	A
保育実習指導Ⅱ	1単位	—	—
保育実習Ⅲ	2単位	10日間	C
保育実習指導Ⅲ	1単位	—	—

#### \*実習施設

A：保育所、幼保連携型認定こども園

BおよびC：乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所

# 保育士の資格を取得するための開設科目

(1) 教養科目11単位以上

教 養 科 目	(外国語科目、体育・健康科目以外の教養科目 外国語科目 体育・健康科目             )	6 単位以上	講義 実技	2 単位 1 単位以上	計11単位以上
		2 単位以上			
(単位の修得方法等は、全学共通科目の表を参照)					

(2) 指定科目74単位以上

系 列	開 設 科 目	授 業 形 態	保育士資格取得に必要な修得単位数			幼 免	備 考
			必修	選択	選択科目の履修方法		
保育の本質・目的に関する科目	保育原理 I	講義	2		9単位以上 選択必修		
	保育原理 II	講義		2			
	幼児教育学原理	講義	2			必修	
	子ども家庭福祉 I	講義	2				
	子ども家庭福祉 II	演習		2			
	社会福祉 I	講義	2				
	社会福祉 II	講義		2			
	子ども家庭支援論	講義	2				必修
保育の対象の理解に関する科目	社会的養護 I	講義	2			必修	
	教師論	講義	2			必修	
	特別支援教育論	講義		2		必修	
	保育の心理学	講義	2			選択必修	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2				
	子どもの理解と援助	演習	1			選択必修	
保育の内容・方法に関する科目	子どもの食と栄養	演習	2				
	幼児教育心理学	講義		2		必修	
	幼児理解の理論と方法	演習		2		必修	
	臨床心理学	演習		2			
	保育の計画と評価	講義	2				
	保育内容総論 I	演習	1			必修	
	保育内容総論 II	演習		1		選択必修	
	保育内容演習(健康) I	演習	1			必修	
	保育内容演習(健康) II	演習	1			必修	
	保育内容演習(人間関係) I	演習	1			必修	
	保育内容演習(人間関係) II	演習	1			必修	
	保育内容演習(言葉) I	演習	1			必修	
	保育内容演習(言葉) II	演習	1			必修	
	保育内容演習(環境) I	演習	1			必修	
	保育内容演習(環境) II	演習	1			必修	
	保育内容演習(表現) A I	演習	1			必修	
	保育内容演習(表現) A II	演習	1			必修	
	保育内容演習(表現) B I	演習	1			必修	
	保育内容演習(表現) B II	演習	1			必修	
	保育内容演習(遊びと文化)	演習		2		選択必修	
保育実習	音楽演習	演習		1		選択必修	
	造形演習	演習		1		選択必修	
	乳児保育 I	講義	2				
	乳児保育 II	演習	1				
	障害児保育	演習	2			選択必修	
	社会的養護 II	演習	1				
	子どもの健康と安全	演習	1				
	子育て支援	演習	1				
	保育内容の理解と方法(音楽表現) I	演習	2				
	保育内容の理解と方法(音楽表現) II	演習		2			
	保育内容の理解と方法(造形表現)	演習	2				
	保育内容の理解と方法(身体表現)	演習	2				
	保育内容の理解と方法(言語表現)	演習	2			選択必修	
	保育実習	保育実習 I A	実習	2			
保育実習 I B		実習	2				
保育実習指導 I A		演習	1				
保育実習指導 I B		演習	1				
保育実習 II		実習	2				
保育実習指導 II		演習	1				
保育実習 III		実習		2			
保育実習指導 III	演習		1				
総合演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2			必修	
合 計			65	24			

**保 育 士**  
 (幼児保育学専攻)

# V. 海外留学

## 「留学」について

- 1) 外国の大学や、それに相当する高等教育機関に学ぶことを希望し、所定の手続きをして教授会で許可されれば、本学に在籍したまま留学することができます。
- 2) 留学には、次の2種類があります。
  - ① 本学と留学協定を結んだ大学への留学(=協定留学)
  - ② 学長が認めたその他の大学・高等教育機関への留学(=認定留学)
- 3) 本学の留学制度の主な点の概要は次のとおりですが、詳しいことは学科・専攻の先生か、海外交流室に尋ねてください。海外交流室がおこなう留学説明会で話を聞くこともできます。

### 〈留学の資格〉

本学に1年以上在学し、教授会が定める所定の単位数を修得した者

### 〈留学期間〉

1年以内(ただし、特に必要と認められれば1年以内に限って延長できるが、修業年限に算入できるのは1年が限度)。

### 〈出願手続き〉

「留学願」は必要書類とともに、定められた期間に海外交流室に提出してください。

### 〈単位の認定〉

留学先で取得した授業科目の単位は60単位を上限として、本学で取得した単位として認められます。

単位の認定を希望する場合は、留学前に学科・専攻の先生に相談して指導を受けてください。

### 〈留学中の納付金と助成〉

別に定めがあります。

- 4) 留学を実現するまでには入念な準備が必要です。留学を考えるにあたって、次のことをしっかり考えてください。
  - ① 何を勉強したいのか。  
将来の目標も含めてじっくり考え、その目標達成のために、留学が最も適切な選択かどうかを見きわめます。
  - ② どの国の、どんな学校で学びたいか。  
自分に適した留学先、学校(大学、短期大学、語学学校、専門学校)を、履修したい科目や必要経費のことなども含めて検討してください。
  - ③ 何年次の、いつからいつまでの留学か。
  - ④ 留学に必要な語学力・学力を備えているか。
  - ⑤ 留学費用の資金計画は十分か。

# VI. 履修の案内

## 1. 履修登録について

### 履修登録

みなさんは、自己の責任において、履修すべき授業科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければなりません。登録を怠れば、当該年度における授業科目の履修の権利を放棄したことになります。

1. 履修登録は、年1回4月に行います。

各年度の履修登録に関しては、別途配付する「ポータルサイト操作マニュアル」にしたがってください。

2. 「履修確認」画面で必ず履修内容を確認してください。履修登録(後期科目)の修正が必要となった場合、後期登録修正期間内に修正を行うことができます。

1) 後期登録修正(9月):対象は後期科目のみです。

### 履修登録の留意点

1. 「授業計画(シラバス)」を熟読し、卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、履修計画を立ててください。

(注)履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合は、GPAに影響しますので注意してください。

2. 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。

3. 登録ミス、登録漏れのないように注意して登録してください。

4. 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ず受講可能か確認してください。

[ポータルサイトURL] <https://portal.nagoya-wu.ac.jp/campusweb/top.do>

5. 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。

6. 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。

### 履修登録の上限設定

各学期・年間の履修登録をする際に、登録科目数(単位数)の上限を設定しています。履修登録科目数(単位数)の上限を設定することをCAP制といいます。

登録科目数(単位数)の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1単位を取得するにあたって必要な学修時間45時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

上限単位数の設定は、学科、学年により多少の違いがありますが、以下のとおりです。

学部	学 科・専 攻		履修科目の上限単位数							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
文学部	児童教育学科	児童教育学専攻	25	25	25	25	40		40	
		幼児保育学専攻	25	25	25	25	25	25	25	25

1. 上限単位数から除外する科目等

(1) 「大学、短大以外の教育施設等における学修」及び「入学前の既修得単位」の認定単位

(2) 児童教育学科共通: 「建学のこころ」「卒業論文演習Ⅰ」「卒業論文演習Ⅱ」「卒業論文演習Ⅲ」「卒業論文」

(3) 児童教育学専攻: 「社会活動実習」「海外スクールインターンシップ」「海外語学実習」「教育実習(中)」「教育実習(小)」「教育実習(幼・小)」「教育実習(幼)Ⅰ」「教育実習(幼)Ⅱ」「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」「保育実習Ⅱ」「介護等体験」

(4) 幼児保育学専攻：「海外スクールインターンシップ」「地域実践実習」「幼稚園教育実習」「保育実習ⅠA」「保育実習ⅠB」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」

教員免許状・保育士資格取得の関係から上記の上限単位数は目安であり弾力的に扱うものとします。

児童教育学専攻の3、4年次はほとんどが通年科目なので、前後期一括して表記してあります。

2. 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目および名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。

3. 特に必要と学長が認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。

4. 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。

なお、年間で上限単位を定めている場合の、前期、後期ごとの履修単位数の配分については弾力的に扱います。学科の履修指導に従ってください。

## 1. 特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、特別履修届を提出する必要があります。特別履修届は、学生支援センターにあります。

- ① 全学共通科目〔必修科目〕を他専攻で下級履修する場合
- ② 専門科目を他クラスで履修（あるいは下級履修）する場合
- ③ 振替を要する科目を履修する場合

## 2. 資格・免許の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録を履修登録期間中に履修登録画面の「資格申請」から必ず行ってください。また、登録した資格・免許を取り消す場合は、「免許・資格取消申請書」を提出してください。

申請書は、学生支援センターにあります。

## 2. 授業及び試験について

### 授 業

#### 〔1〕 授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講……………1年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講……………前期あるいは後期の半年間原則として授業が行われます。
- 3) 集中講義……………上記の通年または半期科目のうち、教育上特別の必要があると認められる場合、あるいは特別の事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間集中的に行われます。

#### 〔2〕 授業時間割

学生ポータルサイトで確認ができます。また、学生支援センター前ホール掲示板にも掲示します。事情により授業時間割・教室を変更したときも学生ポータルサイト（教務掲示一覧）と掲示板でお知らせします。

#### 〔3〕 授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

1・2限	9：00～10：30
3・4限	10：40～12：10
5・6限	13：00～14：30
7・8限	14：40～16：10
9・10限	16：20～17：50

#### 〔4〕 休 講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。
- 2) 休講掲示がなく、始業時間から30分以上経過しても授業担当教員が現れず、また何の連絡もない場合は学生支援センターに連絡をし、指示を受けてください。
- 3) 災害及び交通機関ストライキの場合

地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は、次のとおり取り扱います。

災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等		発表・発令等の時間	本学の講ずる措置
「南海トラフ地震臨時情報」の発表	「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」が発表された場合	発表時	発表以降、大学から授業、試験再開の連絡があるまで休講
	南海トラフ地震臨時情報の「調査中」、「調査終了」、「巨大地震注意」が発表された場合であっても、平常通り授業、試験を実施します。		
「特別警報」または「暴風警報」の発令	名古屋市に発令された場合	午前6時現在発令されている場合	午前中休講
		午前10時現在発令されている場合	全日休講



交通ストライキ	名古屋市営の交通機関、名鉄、JRのいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合(その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する)	午前6時現在 ストが継続している場合	午前中休講
		午前10時現在 ストが継続している場合	全日休講
上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想される場合は、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。			

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。(授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センターで必要な手続きをすることにより欠席とはみなしません。)

- ① 名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ② 災害等により、交通機関が不通になった場合
- ③ 上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～③により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センターで所定の手続きをすれば、追試験が受験できます。

## 〔5〕 補 講

休講のため規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次の方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は、『Handbook(学生手帳)』で確認してください。
- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。

※学生ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。

また、メッセージ転送設定を設定すると登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法は、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

## 〔6〕 欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは次のとおりです。
  - ① 授業開始時間に遅れた者は遅刻として取り扱います。
  - ② 授業終了まで受講していないものは早退として取り扱います。
  - ③ 遅刻及び早退は計3回をもって欠席1回とみなします。
  - ④ 1回の授業時間の3分の1以上(講義・演習科目は30分以上、実験・実習科目は45分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

## 試 験

### 〔1〕 試験の種類と方法

試験の種類は、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

〔2〕 期末試験

- 1) 期末試験には、前期末に行う前期試験、後期末に行う後期試験があります。
- 2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

〔3〕 追試験

- 1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。
  - ① 期末試験を実施した授業科目
  - ② 期末試験に代えて授業担当教員が随時行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目
- 2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。
- 3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。
- 4) 追試験の受験は、欠席理由が以下のいずれかに該当し、当該理由を証明するに足る書類が提出され、教授会が許可した者について認められます。

〔4〕 やむを得ない理由を証明する書類

	欠 席 理 由	提 出 書 類
①	親族の危篤、死亡	理由を証明する書類または写し
②	不慮の事故または災害	事故等を証明する書類
③	病気または負傷	医療機関発行の診断書
④	公共交通機関の事故または遅延	事故又は遅延証明書
⑤	教育実習、保育実習、介護等体験	証明書不要
⑥	就職試験（会社訪問は除く）の受験	本学所定の受験証明書
⑦	期末試験受験科目の実施日時の重複	本学所定の試験重複届
⑧	その他本学が認めた場合	理由を証明する書類

〔5〕 再試験

- 1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期および通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。  
 なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。
- 2) 願い出が遅れた場合は受験資格はありません。
- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験・再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目および免許・資格（教員免許状、保育士の資格）の取得要件科目の場合は、前・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。
- 4) 校外実習（教育実習・保育実習）が不合格となった場合の再試験は実施しません。

## 〔6〕 追・再試験手続一覧

	追 試 験		再 試 験
	受験を希望する者	受験を許可された者	
提出書類	試験欠席届+証明書類	追試験申込書+追試験願出票	再試験申込書+再試験願出票
提出期限	指定された期日 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)
出願科目数	上限なし		上限なし
提出先	学生支援センター		学生支援センター
受験手数料	1科目につき1,000円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要)		1科目につき2,000円

## 〔7〕 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない授業科目。
- 2) 当該授業科目の規定授業時間数（半期7.5回、15回、通年30回）の3分の2以上出席していない者。
- 3) 学生証を所持していない者。
- 4) 試験開始後15分以上遅刻した者。
- 5) その他、教授会において受験資格がないと認められた場合。

## 〔8〕 受験時の諸注意（期末試験、追・再試験）

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

### 〈受験態度〉

受験の際は、終始公正な態度を保ち、いささかでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。  
まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

### 〈監督者の指示の遵守〉

試験室においては、常に監督者の指示に従う。  
指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

### 〈学生証の提示〉

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机の上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターに申し出て、証明書自動発行機で仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料1,000円が必要となる。  
また、学生証を紛失した場合は願い出れば、翌日の午前9時には再発行される。

### 〈不正行為〉

試験において万一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第46条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

**〈所持品の扱い〉**

試験中は学生証、筆記用具(特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ)、監督者が許可したもの以外は机の上に置かない。

その他の手荷物も机の中に入れてないで、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

**〈参照許可物件〉**

問題用紙に参照許可物件(テキスト、ノート、辞書等)が明示されている場合のみ、参照が許可される。

**〈遅刻〉**

遅刻は試験開始後15分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。

なお、遅刻により受験できなかった科目は失格となる。

**〈退室〉**

試験開始後30分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

**〈再入室の禁止〉**

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

**〈答案用紙〉**

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや白紙のものも提出する。

### 3. 成績について

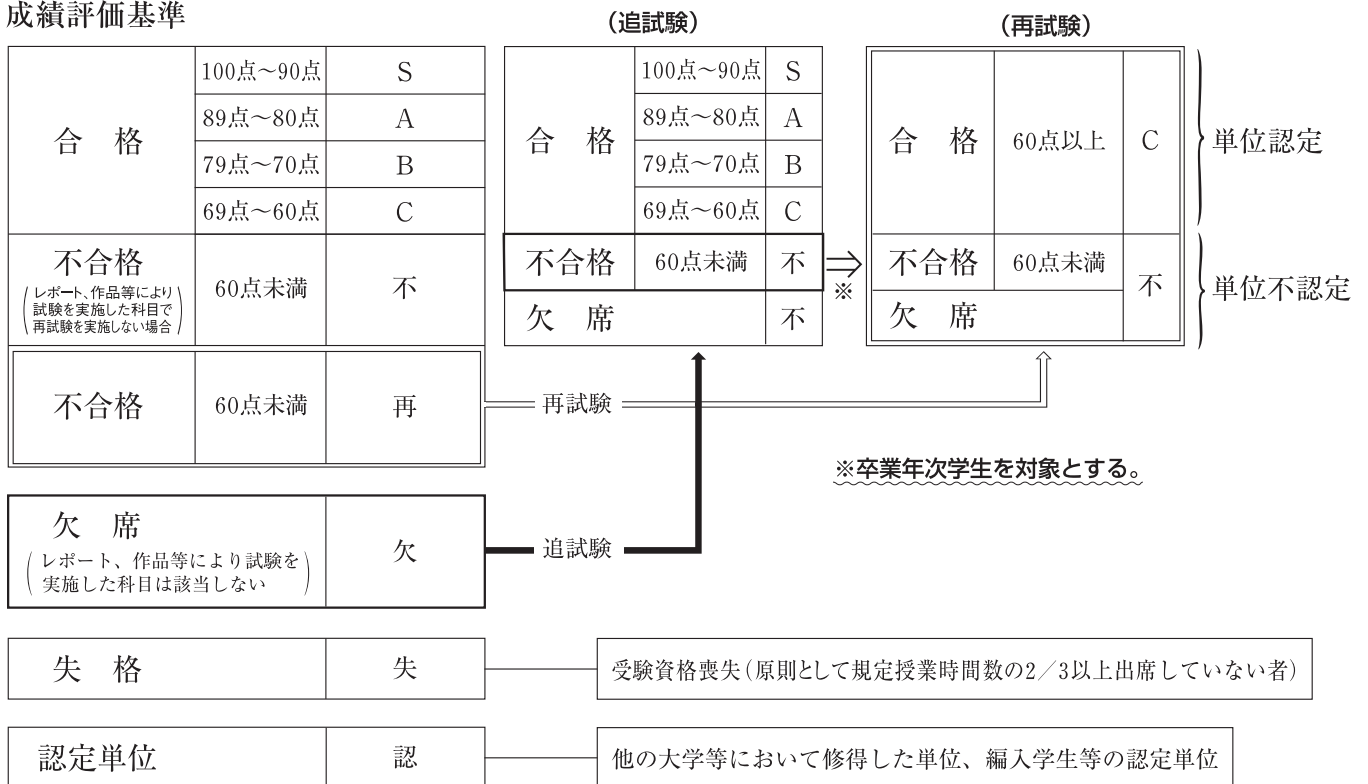
#### 〔1〕 成績の評価・単位の認定

授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、S・A・B・C・不とし、C以上を合格として当該授業科目の単位を認定する。

ただし、当該学期学費未納者については、学費完納まで単位認定を保留する。

なお、100点満点に換算した点数の評価基準は、次のとおりとする。

#### 成績評価基準



成績

#### 〔2〕 成績の通知

期末試験及び追・再試験の結果は、各学期の成績発表日に学生ポータルサイトの成績照会で各自確認してください。既修得単位科目の成績(成績の累算)も成績照会で確認できます。

ただし、卒業学年には各学期の成績発表日に成績通知表を配布します。

#### 〔3〕 成績の問い合わせ

成績についての質問がある場合は、成績発表後3日以内(土・日・祝日除く)に学生支援センターに申し出て、「成績評価についての質問」に記入し提出してください。

## 4. GPAについて

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。GPAを知ることによって、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画が適切にたてられます。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA 評価平均が下位25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準

### 〔1〕 GP（グレード・ポイント）

最終成績評価（S：4、A：3、B：2、C：1、不認定：0、失格：0、認定：-）

### 〔2〕 不合格科目等の取り扱い

成績評価が不合格の科目、失格となった科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外となります。

### 〔3〕 GPAの算出式

各科目の成績評価を成績値(GP)に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

## 5. 単位互換制度について

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

### 〔1〕名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位取得が可能です。学生は、下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

#### (1) 名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数
生 活 マ ナ ー 演 習	演 習	1

#### (2) 履修対象者

1年生後期から2年生の学生

#### (3) 単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の単位互換科目の単位数として算入されます。

#### (4) 履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センターへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4月第2木曜日まで      後期科目：9月第2木曜日まで

### 〔2〕愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位取得が可能です。詳しくは、学生支援センター前ホール掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認してください。

# 教務関係の用語

**お** オムニバス  
複数の教員が授業内容を分担して受け持つ方式のことです。

**か** 下級履修  
下級学年に担当されている授業科目を履修することです。

## 科目等履修生制度

資格取得等のために必要でありながら、在学中に履修しなかった(できなかった)、あるいは単位を認定されなかった科目を、卒業後に履修して単位を修得できる制度のことです。

**き** 期末試験  
学期末に行われる試験のことです。

## CAP制

各学期・年間の履修登録科目数(単位数)の上限を設定する制度のことです。

## 休学

病気等により一定期間授業を受けない状態のことです。休学するには所定の書式で届け出る必要があります。

## 休講

学校行事や授業担当教員の都合により、授業が行われないことです。

## 教育課程(カリキュラム)

教育の目的や目標を達成するため、どのような教育内容(授業科目)を、どれだけ(単位数)、どのような方法(必修・選択の別、担当する学年、授業期間・方法等)で教授するかを計画したものです。

**け** 欠席  
やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。

**さ** 在学  
本学の学生として、現に学修している(授業を受けている)状態のことです。

## 再試験

試験を受験し、不合格となった科目について、再度実施する試験のことです。

## 再履修

不合格となった科目を再度履修することです。合格して単位を認定された科目を再履修することはありません。

## し GPA

Grade Point Average(グレード・ポイント・アベレージ)の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント( $GP \times$ 単位数)の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。



## 失格（受験資格喪失）

当該授業科目の規定授業時間数（半期7.5回、15回、通年30回）の2／3以上出席しないと失格になり、試験が受けられません。

## 授業計画（シラバス）

授業内容の概要を記載したもので、履修登録をする際には必ず熟読してください。講義概要、講義要項などと呼ばれることもあります。一般的に授業科目名、担当者名、授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、学習上の留意事項、授業外学習の指示、成績評価基準、テキスト、参考書、その他受講に際して必要な事項が記されています。

## 授業形態

授業実施方法のことで、次の5つに分けられます。

- 1) 講義 …… 教員が学生に対し、説明することを主として知識を授ける授業方法のことです。
- 2) 演習 …… 教員の講義とともに、学生も討議・発表等を行いつつ指導を受ける授業方法のことです。
- 3) 実験 …… 理論や推論が正しいかどうかを、一定の条件で試してみる授業方法のことです。
- 4) 実習 …… 実地について学習する授業方法のことです。
- 5) 実技 …… 実際に身体を用いて行う授業方法のことです。

開講時期・期間で区分すると、次の3つになります。

- 1) 通年 …… 1年間、毎週授業が行われます。
- 2) 半期 …… 前期あるいは後期の半年間、毎週授業が行われます。
- 3) 集中 …… 休業期間中などに、短期間（3～6日間程度）で授業が行われます。

## 除籍

学費未納等の理由により、遡って在籍していなかったものとみなされることです。

## せ 成績評価

単位を授与する際の基準と表記方法を示すものです。本学では、試験成績と平常成績を総合して判定し、90点以上をS、80点～89点をA、70点～79点をB、60点～69点をC、60点未満を不と表記することにしています。

## 選択科目

履修する、しないを自由に決められる科目のことです。

## 選択必修科目

複数の科目のうちから、1科目あるいは複数の科目を選んで単位を修得しなければならない科目のことです。未修得の場合は卒業が認められません。

## そ 卒業要件

卒業に必要な条件のことです。次の2つをともに満たさなければいけません。

- 1) 4年以上在学していること。休学の期間は含まれません。
- 2) 学科の課程を修了するのに必要な単位数を修得していること。

## た 退学

卒業前に、病気・その他やむを得ない事情で大学を辞めることです。

## 単位

授業科目の内容に必要な学修量（時間）を示す基準のことです。所定の単位数を積み上げることにより、卒業できる制度のことを単位制といいます。

## 単位互換

協定を結んだ他大学の授業科目を履修し修得した単位を、本学の授業科目を履修し修得したものとみなすことができる制度のことです。

## 単位の認定

本学では、成績評価がS，A，B，Cの場合、これを合格として単位を認定します。それ以外は不合格ですので、単位は認定されません。

## つ 追試験

病気等やむを得ない事由により、試験を受験できなかった者に対して実施する試験のことです。

## ひ 必修科目

必ず単位を修得しなければならない科目のことです。たとえ1科目でも未修得の科目があれば、卒業が認められません。

## ふ 復学

休学者が大学に復帰することです。

## へ 編入学

異なる制度の学校から第1学年の途中または第2学年以上に入学することをいいますが、短期大学を卒業して、大学の第3年次に入学するケースが一般的です。

## ほ 補講

休講により生じた授業時間数の不足を補うために実施される授業のことですが、休講がない場合でも、授業の進み具合によって実施されることがあります。

## り 履修

授業を受けて学修することです。

## 履修登録

どの授業科目を履修するか意思表示を行うことです。